資料１

2021年度堺第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1　担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】 昨年　陽田町会の駅前団地の実態調査を実施。調査の結果、地形が急坂ということが影響し買い物や通院のしにくさを訴え外出の頻度が週 1 回以下という回答や地域のつながりがないという回答がそれぞれ 3 割を占めた。また、調査時、コロナウイルス感染を気にし、対面で話すことを拒まれた方も多く、コロナ禍という状況がさらに引きこもりや人とコミュニケーションをとらなくなることを助長し、フレイルのリスクを高めていることも実感した。コロナ禍のコミュニケーションをとるツールとしてスマートフォンの活用が一つの手段となるが、活用できていないという回答も多かったことから、スマートフォン講座も並行しながら、フレイル予防に取り組む必要がある。
【現状と課題②】 武蔵岡アパート（武蔵岡団地）は全戸数 787 戸のうち 518 戸に高齢者が住み、このうち 262 戸が独居高齢者となっている。2020 年度の総合相談のうち、およそ 40％が武蔵岡アパートの高齢者からの相談であり、内容としては、精神疾患(統合失調症・アルコール依存症など)、老々介護、8050 問題、認知症、権利擁護、生活支援と多岐にわたった。又、これらの問題は単発ではなく重複して起こっていることが多い。問題解決のためには一方向からだけの支援では一時的には解決したように見えても根本的な解決には至らないことが多い。したがって、包括的に支えられるセーフティネット的な仕組み作りを長期的に行う必要がある。
【現状と課題③】 2019 年度　2020 年度と継続して相原町のケアマネジャー・地域の住民からの相談の中で精神障がい者との関わりに関する相談が多かった。医療に繋がっていないケースもある中、2020 年度は相談内容から課題を抽出し、課題解決に向けた仕組みを構築すべく、地域ケア推進会議を開催。参加者に現状把握と課題共有を図った。その会議では「多職種で連携して支援出来る仕組みがほしい」という意見が最も多く、その仕組みづくりについて検討していく必要があると考えている。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<table>
<tr><td colspan="2">取組名①</td><td colspan="2">地域のつながりを深めるための検討会の開催</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">駅前団地の住民と地域の通い場の立ち上げ</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">「通い場の立ち上げ」に向け、昨年度の実態調査で立ち上げの意向があった駅前団地の住民とともに地域のつながりを深めるための検討会を開催する。
通い場以外にも、「ちょこっとお手伝い」などの生活支援の必要性について言及する住民もいるため、まずは「通い場の立ち上げ」に優先的に取り組み、他の課題については、住民の意向に沿って順番に課題解決に取り組んでいく。
又、近隣の大学にも協力をいただいて、スマートフォン講座を開催予定。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">① 「地域のつながりを深めるための検討会」の開催数
② スマートフォン講座の開催数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td colspan="2">① 2 回以上 ②1 回</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実績</td><td>実績値</td><td colspan="2">① 2回 ②2回</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">（目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。）
①見守り、生活支援について「支え合い連絡会」を 4 月に開催。住民が町トレ・見守りに関心があったことから10月、11月に町トレの自主グループが 2 団体立ち上がった。そこに対して見守り活動についての講座があることを提案すると講座を受講したいという要望があったので長年見守り活動をし、かつ近隣の丸山見守りの会の代表者に協力依頼し見守り活動についてのミニ講座を 11 月に開催。今後の取り組みについて話し合いを行った。②近隣の大学による学生ボランティアの協力によりスマートフォン講座を開催。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">（2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。）
①通い場は立ち上がったが、生活支援や見守りネットワークの立ち上げに向けて地域との検討会の継続し、地域の要望について検討していく。
②講座開催について受講者からは、「1度だけでは覚えられない。繰り返し教えてもらえるとできるようになると思うので今後も継続してほしい。」という要望が複数あり、定期的な講座の開催を予定している。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名②</td><td colspan="2">武蔵岡アパートの高齢者が安心して生活するための仕組み作り</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">見守りが出来る活動団体の立ち上げ</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">①昨年度、「町トレを立ち上げたい」と希望された健康づくり推進員と共に町トレを立ち上げる。立ち上げた際には見守りの目を養えるように認知症サポーター養成講座と見守りミニ講座を開催する。
②移動支援に協力したいと手挙げしてくれた福祉事業所・自治会と共に買い物支援に関するささえ合い連絡会を開催する。
③支援センターと顔の見える関係づくり・相談できる環境づくりを継続して行う。昨年度に引き続き、「介護と医療の相談会・あんしんキーホルダー登録会」を開催し、又、武蔵岡アパートの住民が主体となった地域ケア会議の中で一昨年から取り組んできた終活ノートの広報支援や消費者被害予防講座を開催していく。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">①立ち上げた団体を対象とした認知症サポーター養成講座・見守り啓発ミニ講座の開催数　②買い物支援に関するささえあい連絡会の開催数　③-1「介護と医療の相談会」の開催数　③-2 終活ノートの広報支援　③-3　消費者被害予防講座開催数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td colspan="2">①各 1 回　②1回　③-1　1 回
③-2 チラシを 700 部配布　③-3　1 回</td></tr>
<tr><td rowspan="4">実績</td><td>実績値</td><td colspan="2">①　0回　②4回　③-1、2、3　0 回</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">（目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。）
①4月に町トレのプレゼンテーションを開催したが、スタート応援講座まで至らなかった。（プレゼンテーション後の反応として地域の特色から立ち上げに向け、時間をかけた細やかな調整の必要性があることがわかった。）②移動支援では大戸の老人会、町会・自治会長、民生委員から協力が得られ、11月に2か所の福祉施設から車両提供により試行運転が開始。③終活ノートについて複数回、自治会長と話をしたが、コロナ感染の不安が強く、相談会は開催に至らなかった為、広報支援も見送ることになった。③－3の講座開催も「今は見合わせてほしい。」と住民の意向により開催できなかった。代替として支援センター便りを活用し、消費者被害について注意喚起を行った。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
</table>

	（2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。）①町トレはどうすれば立ち上げられるのかの再検討。立ち上げに向けた地域への働きかけ（町トレ・見守り・認知症サポーター養成講座）のアプローチ方法として再度町トレ立ち上げに向けて取り組んでいく。②次年度に向け関係各者と再度、支え合い連絡会を開催し移動支援における課題抽出と検討をする。③コロナ不安により開催時期が決まらないことが課題である。町会・自治会長に開催方法について検討する必要がある。

取組名③	心の病を抱える高齢者を支える仕組みづくり

計画	目標	
	精神疾患を患っている高齢者を地域の精神科、相原町のケアマネジャーや訪問看護等で連携して支援するための仕組みづくり	
	2021年度の取組	
	適切に医療に繋がっていないケースなど、精神疾患を患っている高齢者を、地域の専門職が連携して支援する仕組みづくりのため、相原町及びその周辺地域の精神科と相原町のケアマネジャー・精神疾患を患っている高齢者を支援している事業所（訪問看護事業所など）とで具体策を検討する会議を開催する。	
	活動指標	
	精神科と相原町のケアマネジャー・地域の事業所と地域ケア推進会議の開催数	
	目標値	2 回
実績	実績値	2 回
	2021年度の成果	
	（目標に対して、2021年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。） 今年度、医療職・介護職を交えた地域ケア会議を開催。 1回目は仕組みづくりとして連携ツールの活用について情報共有。 2 回目は連携ツールを活用している事業所からの活用事例の紹介による情報共有。 仮説事例を踏まえて課題解決について具体策の検討を行った。	
	2022年度に向けた課題	
	（2021年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。） 仕組みづくりに向けた具体策（ICT ツール活用時、本人や家族、ヘルパーなど本人に近い人をツールメンバーに含めるか否か。専門医への受診のつなげる方法の紹介）を検討ができたが医療につながらない精神疾患の方の支援についての仕組みづくりという課題は来年度も引き続き検討していく。	

3　地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数（企画会を除く）	2　　回
検討する課題（決まっている場合のみ）	
・心の病を抱える高齢者を支える仕組み作り	

4　市のコメント

①特に評価できる点

・学生ボランティアにアプローチして講座を実施し、地域の輪を広げることができたこと。

・住民の方の意見をよく聞いて、地域の特性に合わせ、人間関係などの細やかな調整を行っていること。

・セーフティネットとしての意識を持っていること。

②次年度以降力を入れて欲しい点

・今後もセーフティネットとして、見守りネットワークの構築に向けての支援を継続して下さい。

・職員の継続性という点は力を入れて、職員が定着するようにして下さい。

・総合相談のうち40％を占める武蔵岡アパートに対して、町トレのスタート応援講座まで至らなかった点について、住民の特性に合わせ、細やかな対応を継続して下さい。

2021年度堺第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1　担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】 これまで支援センターの情報発信は、広報紙を作成し、回覧板で周知するというのが主軸となっていた。しかし「コロナ禍」の下、上小山田・小山ともに町内会・自治会の定例会が中止となっていたり、回覧板の使用が縮小されたりと、2020年度は支援センターの周知活動が滞ってしまっている。 加えて、小山においては、小山連合から脱退している町内会・自治会や、自治会組織を持たないマンションなどが増えており、小山連合での一斉周知・回覧では、そもそも小山全域をカバーできない状況にある。様々な世代に向け、多様なツールを使用しての情報発信に取り組む必要が出てきている。
【現状と課題②】 2020年度は新型コロナの感染拡大予防のため、自主グループ活動等の地域活動や、サロン・認知症カフェ等の集いの場の多くが、活動を中止せざるを得ない状況であった。長きにわたる「自粛」のもとで、フレイルや認知症が着実に進行している。また、通常であれば、これらの地域活動や集いの場の中で、自然に行われていた「見守り」が衰退しているため、フレイルや認知症の早期発見ができにくくなってきており、悪循環をきたしている。 加えて、エリア全体（特に小山ヶ丘）は生産年齢人口が高い傾向があり、その親世代の高齢化が進行している。一人暮らしが困難になった親の呼び寄せが急増しており、結果として、地縁の薄い虚弱高齢者が増えている。情勢にあった「見守り」や「対象者把握」についての検討が必要となってきている。
【現状と課題③】 2020年度は「自粛」の期間が長く、閉塞された空間での生活の下、虐待が多く発生していた。（平成26～令和1年までの平均報告数 1.8 件の 5 倍。）虐待者・被虐待者ともに、精神疾患（発達障害含む）を抱えた人が増えており、病院・保健所・障がい者支援センター・警察等との連携が、より一層必要になってきている。特に子や孫の世代が虐待者である場合、虐待者支援も早急に必要なケースが増えているが、18歳から64歳までの年代に「総合相談窓口」が存在しない中、多機関での連携が鍵となっている。そのためにはふだんからの、「相談しやすい関係づくり」が重要である。 現在、「関係づくり」の場として、「町田西地域情報交換会」を月に1回開催しており、障がい者支援センター、引きこもりの若者支援をしている NPO、訪問看護ステーションとは関係構築ができている。連携機関を増やし、この場を有効に活用していきたい。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<table>
<tr><td colspan="2">取組名①</td><td colspan="2">多様なツールでの情報発信の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">幅広い年代の地域の方々が支援センターからの情報を容易に入手できるようにし、困った時に早期に相談できるようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">後期高齢者は、チラシや口コミが有力な情報源となるため、従来から行っている紙ベースでの発信は継続していく。回覧・掲示板のほか、チラシを置いていただける店舗等を拡大することにより、多くの方の目に留まるようにしていく。
前期高齢者や、介護世代である40～50歳代の方に対しては、ネットやSNSも活用して、よりスムーズに情報が得られるように体制を整えていく。支援センターのホームページの内容を充実することと合わせ、SNSを使った周知方法についても検討し、様々な媒体からの情報取得が可能となるように取り組んでいきたい。また、ネット・SNSを活用できる高齢者を増やしていくため、センター事業の中でネット・SNS 等の「活用講座」の開催も試みていく。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">新規にチラシを置いていただける店舗（もしくは拠点）等の数
ネット・SNS等の「活用講座」開催数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td colspan="2">3 店舗（もしくは拠点）、活用講座開催 1 回</td></tr>
<tr><td rowspan="6">実績</td><td>実績値</td><td colspan="2">3 拠点、活用講座開催 1 回</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">店舗 1 店、新設マンション1棟、NPO 法人 1 ヶ所で新たにチラシ設置が可能となっている。センターの広報誌である「サークル丘の上」や「丘の上号外」は毎回 QR コードを付けており、ホームページを閲覧しやすいようにしている。10月から11月にかけて開催した、オンライン地域介護予防教室（全6回シリーズ：1回開催）では QR コードの読み取り方の説明も行い、スマホでの情報取得を体験していただくことができた。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">チラシ設置に協力いただけている場所は町田街道沿いに多く、多摩境通り沿いの小山ヶ丘地区にはまだ少ない。マンションに住む高齢者が多く利用されているようなコンビニ等に、今後も協力要請していく必要がある。また、つながりの薄いマンションにおいては、継続的にチラシ設置や掲示をお願いできていないところもあるため、関係構築を図る必要がある。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名②</td><td colspan="2">地域の情勢にあった見守り活動の推進</td></tr>
<tr><td rowspan="7">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">見守りネットワークがない地区や、民生委員不在地区の、高齢者見守り活動の補完体制を整えていき、「社会的行方不明者」を早期に発見し、つながりを作る。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">見守りネットワークがなく、民生委員不在でもある、小山ヶ丘のマンションの一人暮らし高齢者について、アウトリーチの方法を検討し、支援センターによる積極的・継続的な見守りが必要な、対象者の把握に取り組む。
地域住民の見守り意識の向上を目的として、自主グループ等に対し、見守り普及啓発ミニ講座受講についてアプローチする。見守りネットワークがなく、かつ民生委員不在の地区（中村町内会など）に対し、重点的に声をかけていく。
また、今年度は、市から提供される、「健診サービス未利用者」の名簿に上がった方に対し、戸別訪問を行っていく。それにより、フレイルや認知症のリスクのある方の、早期発見・早期対応に努めたい。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">アプローチをしたマンションの棟数
見守り普及啓発ミニ講座をアプローチしたグループ数
名簿による戸別訪問を行った数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td colspan="2">マンション 1 棟以上、1 グループ以上、個別訪問 30 件</td></tr>
<tr><td rowspan="6">実績</td><td>実績値</td><td colspan="2">マンション 1 棟、1 グループ、個別訪問 87 件（見込み）</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">新設マンションに、8 月上旬挨拶に行っている。自治会等体制整い次第（12～1月を想定。）連絡をいただくこととなっており、今後アプローチ進める予定。見守り普及啓発ミニ講座は中村町内会を含む老人会（長寿会）に対して開催できた。中村町内会内の中中村自治会では見回り活動が始まっており、見回り隊会長と連絡を取り合いながら、関係構築中。未受診リスト戸別訪問は抽出した 87 件全戸を行う予定である。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">マンションでの、見守りが必要な対象者把握については、民生委員不在、小山連合未加入のところ（15 棟中 7 棟）を最優先として、次年度も行っていく。
見守りネットワークがなく、かつ民生委員不在の地区にある町内会や老人会、自主グループに対して、普及啓発活動を進める。長きにわたって民生委員を立てることができていない、田端地区を優先にアプローチしていきたい。
未受診リスト戸別訪問は今年度の結果を踏まえ、全戸訪問を行う頻度を検討したい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名③</td><td colspan="2">部門を超えた「横割り」の関係づくりの促進</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">部門を超えた関係づくりを強め、高齢者支援だけでは解決しない問題（精神疾患、障がい、同居家族の問題等）について、協働しやすい素地を形成していく。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">2019年より立ち上げた、町田西地域情報交換会を毎月開催し、部門を超えた情報交換の機会を定期的に確保していく。必要に応じて、勉強会や事例検討会なども開催し、協働についての振り返りや意見交換を行えるように図っていく。現在の主たるメンバーは、高齢・障がい・引きこもり・医療サービス事業所であるが、もっと多様な機関・人にも声かけしていき、参加を促していく。
2019年より、引きこもりの若者支援を行う NPO 法人を中心に、地域の支えあい活動を行う、「わらしべワークプロジェクト」がスタートしており、立ち上がりから関わっている。今後も活動を通して、地域の関係団体（子どもや若者の支援者、社会福祉協議会等）との関係づくりを深めていく。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">町田西地域情報交換会に新規で参加した機関（もしくは個人）の数
わらしべワークプロジェクト実行委員会出席数</td></tr>
<tr><td rowspan="6">実績</td><td>目標値</td><td colspan="2">新規参加機関数1件以上、出席数10回以上</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td colspan="2">新規参加機関 1 か所、出席数 12 回（見込み）</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">町田西地域情報交換会には放課後デイの事業所（1 社）が新規参加されている。障がいとの連携は進み、障がい部門のネットワーク会議にはメンバーとして定例出席している。（年 4 回程度開催）学校関係者と障がい者支援センターとで、今後の関係構築も検討中である。わらしべワークプロジェクト実行委員会には毎月出席。登録している若者と、コーディネートを担っている支援者との交流会などにも出席した。介護予防講座の講座補助をワークとして依頼し、若者とのかかわりも持つ機会が増えた。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">町田西地域情報交換会は医療に携わる参加メンバーが不足している。今年度声をかけたところはあったものの、開催する曜日や時間等の条件が折り合わず、参加に至らなかった。もっと多くの医療機関に呼びかけを続けていく必要があると認識している。特に精神疾患とのかかわりが深い病院・クリニック・サービス事業所を重点的に当たっていきたい。</td></tr>
</table>

3　地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数（企画会を除く）	3　回
検討する課題（決まっている場合のみ）	

4　市のコメント

①特に評価できる点

・未受診者リストを全件回ろうとしているところ、チラシを配れる店舗等を積極的に増やしていること。

・スマホを利用して介護予防教室を実施できたことやその際にわらしべワークプロジェクトの若者を巻き込んで行えたこと。

・町田西地域情報交換会などで様々な機関と部門を超えた情報交換を行い、横割りの関係を構築しているところ。

・見守りネットワークがなく、民生委員もいない町内会に対して、講座の実施から活動の開始まで支援することができたこと。

②次年度以降力を入れて欲しい点

・未受診リストの訪問を継続して、地域の課題を見つけていって下さい。

・コンビニなどに置いているチラシが、今後どう影響を及ぼしていくか経過をみていって下さい。

・町田西地域情報交換会で現在メンバーとして不足している、医療機関との連携を進めて下さい。

・わらしべワークプロジェクトについては、「地域介護予防教室」にもスタッフとして若者が参加する等、多世代が関わる取り組みとなっており、来年度も活動支援を継続していって下さい。

・見守りネットワークのない地域に対して、引き続き見守り体制の構築に向け支援を継続していって下さい。

2021年度忠生第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1　担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】

忠生地区は、団地やアパートに住んでいる高齢者や単身者が多く、地域の繋がりが希薄で、閉じこもりのリスクが高い高齢者が潜在的に多く、元気だった住人ほど、孤独死で発見されることが多い。

このような背景から、これまで忠生地区の町内会自治会、管理組合などに見守り支援ネットワーク立ち上げ支援を行ってきたが、見守り支援ネットワーク立ち上げには至らなかった。

そのため、支援対象者の早期発見につながるように町内会自治会だけではなく、町トレなど自主グループや民間事業者と地域住民のネットワーク構築が必要である。

【現状と課題②】

高齢化率の最も高い小山田桜台は認知症の発症、進行、身体機能の低下により、要介護認定者が急増していることから、団地での暮らしが困難となる方の増加が予想される。

既に、孤独死や要介護状態となることを防ぐため、住民独自の助け合い活動や見守りを始める団体が増えている。

しかし、今まで以上に、地域の中で気軽に相談でき、必要な際には支援センターへ繋がるように、地域住民、ボランティア団体事業所と連携を図り、日常的な支援体制を構築、強化する必要がある。

【現状と課題③】

高齢化が進み、慢性的な疾患を持つ認知症高齢者の一人暮らしや同居家族に精神疾患があるなど多様な生活課題を抱えている高齢者が増えている。

個別ケースの検討を通しても、課題として「8050問題」「閉じこもりの家族」などがあげられる。そのような課題を抱える方が、できる限り住み慣れた地域での生活を継続できるよう、医療と介護の連携をはじめ、多職種協働で地域支援体制を充実させる必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<table>
<tr><td colspan="2">取組名①</td><td colspan="2">忠生地区への見守り支援ネットワーク普及活動</td></tr>
<tr><td rowspan="7">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">忠生地区の町内会自治会や自主グループ、民間事業者（不動産屋、農協、コンビニ、新聞配達等）へ地域の高齢者の実情を伝え、見守りについての普及啓発を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">・忠生地区の町内会自治会、民間事業者へ地域の実情を伝え見守り普及啓発講座開催へと働きかける。
・支援センター内で担当を決め、忠生地区内の 75 歳以上、介護未認定、未受診の方の戸別訪問を実施する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">① 高齢者見守り活動普及啓発講座（レギュラー・ミニ講座合わせた）の開催数
② 介護未認定、未受診の後期高齢者の訪問実績数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>① 2 回</td><td>② 全件</td></tr>
<tr><td rowspan="4">実績</td><td>実績値</td><td>① 3 回</td><td>② 58件 /102 件</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021 年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">① 見守り活動普及啓発講座3回実施。具体的な実施状況としては、忠生地区でアパート管理をしている不動産会社と桜美林大学生に対して、それぞれオンラインで見守りミニ講座を開催した。当日参加できない不動産会社には訪問を行って趣旨を説明し見守り活動協力事業者として登録いただいた。桜美林台自治会に対しては対面で講座を実施し、あんしん連絡員・協力員の登録をしていただいた。一方で町トレや自主グループに対しては、アプローチを行ってきたものの、活動自粛期間が長く、予定していた対面講座は思うように開催できなかった。
② 忠生地区に加え下小山田地区の介護未認定、未受診の後期高齢者全102件のうち58件を訪問し、実際に会えた数は30件であった。あんしんキーホルダーの案内を行い、3件の登録があった。訪問の結果、既に介護認定を受けている方や受診されている方、元気で仕事されている方もいたが、継続して見守りの必要な方を把握することができた。会えなかった方には後日再訪問し不在時には支援センターの案内パンフレット、あんしんキーホルダーの案内などポストインしている。なお、すでに相談履歴があり把握できている方や引っ越しされている方、亡くなられている方が19件/102件いた。</td></tr>
</table>

	2022 年度に向けた課題	
	支援対象者の早期発見、早期対応に向けた対策が依然として課題。 ・忠生地区内での見守り普及啓発講座が不動産業者向けには開催できたものの、町内会・自治会や自主グループに対しては忠生地区以外での開催になってしまったので、次年度は忠生地区での普及啓発に力を入れる。 ・忠生地区は新たに転居されてくる方や移動される方が多いという地域性があり、全件を把握することが困難であるが、孤立死を予防できるよう、戸別訪問を継続する。また、同地区内で見守りが必要であるということを把握している方に関しては、引き続き、定期的に戸別訪問を実施する。	
取組名②	高齢化の進む地域への介護予防や認知症の理解、促進の普及啓発	
計画	目標	
	小山田桜台地区を中心に高齢者自身の自立への取り組みや、住民が共に支え合うための地域コミュニティづくりを目指す。	
	2021 年度の取組	
	・小山田桜台地区での自治会、関係団体と連携し、介護予防に関する相談を含めた出張相談会の開催 ・小山田桜台地区での自治会、関係団体と連携し情報交換や課題共有の場の継続 ・エリア内の中学校で認知症サポーター養成講座を開催する	
	活動指標	
	① 出張相談会の開催数 ② 地域ケア推進会議（地域支え合い連絡会）の開催数 ③ 認知症サポーター養成講座の開催数	
	目標値	① 6 回　② 6 回　③ 3回
実績	実績値	① 7回　② 6回　③ 1回
	2021年度の成果	
	① 6月から2ヵ月に 1 回の頻度で、小山田桜台にて出張相談会を開催。案内チラシは当初、戸別ポスティングと商店街、生活支援団体への掲示での案内のみであったが、4回目より、まちづくり協議会と連携し、気軽に相談できる場の定着となる様、住民の協力を得てこれまで把握しきれていなかった複数の管理組合にも案内掲示を依頼することができた。毎回、個別相談、あんしんキーホルダー登録会、握力測定などを実施し、介護予防自主グループへの参加につながった。 ② 小山田桜台支え合い連絡会はコロナ禍でもオンラインと対面を組み合わせたハイブリッド型で、2ヵ月に1回の頻度で開催を継続していた。高齢化の進む小山田桜台団地で、生活上のちょっとした困りごとについての話し合いや、助け合いができるように、住民活動グループ、生活支援団体を中心とした情報交換を行った。テーマを「住民が取り組める生活課題」とし課題解決に向け、継続して話し合	

	いをしている。 ③ 年度内に、忠生中学校に向けて認知症サポーター養成講座を開催予定。次年度開催にむけ、中学校でのオンラインを活用した認知症サポーター養成講座の開催実績と学生向け認知症サポーター養成講座のノウハウを活かし、小山田桜台団地内にある中学校へアプローチを行った。 今年度、開催予定であった自主グループへの認知症サポーター養成講座は、コロナウイルス感染拡大防止のため町内会活動が制限されている中での開催は困難であり、4月以降の開催を予定している。
	2022年度に向けた課題
	① 市内でも高齢化率の高い小山田桜台団地では、今後も相談件数の増加が見込まれるが、女性に比べ、自主グループに参加したり、自治会とつながりがあったりする男性が少ないため、男性の相談者も少なくなっている。誰でも気軽に相談できるよう、支援センターの周知と相談会の開催を継続していく。また、地域とのつながりがもてるよう、地域活動の現状や課題を把握し、今後の活動に対する支援の在り方を検討していく。 ② 会議の名称を参加者が決め、話し合うテーマについて意識を持つことができたが、会議で上がった課題について、実際の取り組みに至っていないため、取り組める課題と必要なこと等、具体的な解決に向けた話し合いを継続していく。 ③ 高齢化率の高い地域の実情を知らない若年層が多いため、それを知る機会の一つとして、認知症サポーター養成講座の内容を検討していく。

取組名③	多職種協働で地域支援体制を充実させ、地域包括ケアを推進していく
計画	目標
	医療と介護関係者に留まらず、障がい者支援センター等と連携し、包括的に支援するネットワークづくりと意識を共有するために地域ケア推進会議を開催する。
	2021の取組
	・医療と介護の連携支援センター等と協働し、地域のケアマネジャーやサービス事業所や地域などを対象に、医師や医療の専門職に講師を依頼し、地域ケア推進会議を開催する。コロナ禍で外出の機会が減り、介護が必要となる一歩手前の「フレイル」に陥る高齢者が増加していることを、忠生地区の課題と捉え、様々な支援者の意見をとりいれ、地域でどう解決していくかを明確にしていく。 ・圏域での研修会（地域共生社会に向けた多職種連携について）開催やエリア内の居宅介護支援事業所を対象とした勉強会（内容については検討中）を開催する。 ・高齢者支援センターの日頃の相談から「8050 問題」「9060 問題」に関わる相談内容を把握するとともに、課題分析する。
	活動指標

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="2">ネットワーク構築を目的とした地域ケア推進会議開催数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>3 回</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実績</td><td>実績値</td><td>3 回</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021 年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="2">・2月に医療と介護の連携支援センター等と協働し、コロナ禍で弱った能力、体力を向上するために「ケアプランにおける目標設定と評価について PDCA サイクルをリハ専門職の実践に学ぶ」をテーマに、訪問看護ステーションの PT を講師に地域ケア推進会議を開催する。
他2回は、成年後見制度の活用につなげるため、6/29 に「成年後見制度につなげるための本人情報シートの書き方」、また、高齢者が安心して暮らせる住まいの確保を図るため、9/30 に「高齢者の住まいについて考える」をテーマにケアマネ向けに地域ケア推進会議を開催した。
・「8050 問題」では、50 の支援が継続しないと複合課題が解決しにくい状況が多くあることから「ひきこもり支援の現状と若者と行う地域づくり」を行う NPO 法人ゆどうふに依頼し「高齢者の親御さんと同居している中高年のひきこもり家族との関わり」をテーマに、ひきこもりの定義、中高年のひきこもり支援、ケアマネジャーができる事、役割についての勉強会を開催した。
また、介護予防の観点で、自立支援や重度化防止に向けたケアマネジメントの展開が求められていることから 6/17 と 7/15 の 2 回に分けて「適切なスキンケアや排泄管理を行いその人らしい生活を取り戻す支援」をテーマに皮膚・排泄ケア認定看護師を講師に開催、9/30 には「最期まで自分の口から食べることの大切さ」というテーマに専門職（ST）を講師に勉強会を開催した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="2">・「8050 問題」については、支援に繋がるまでの期間が長くなりがちであり、その対策として潜在的ニーズを如何にして発見するかが課題で、ひきこもり支援の情報とスキルが足りないと感じている。ひきこもりに特化した部門がないことや、医療につなげることが解決に直結しない場合の対応など、長期化しない手立てを知ることが必要だと思われる。</td></tr>
</table>

3 地域ケア推進会議の開催予定

2021 年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数（企画会を除く）	6 回
検討する課題（決まっている場合のみ）	

・小山田桜台における居場所作り・生活支援活動に向けた情報交換
・権利擁護の支援が必要なケースが増えていることから居宅介護支援事業所に向けて成年後見制度の申し立てについての検討。
・8050問題の相談件数が増加していることから、障がい支援センターと定期的に情報交換の機会をもつ。

4　市のコメント

①特に評価できる点
・小山田桜台地域の高齢者に関わる団体の話し合いの場の設定や活動支援、忠生地区における移動支援活動の支援等、地域の活動のサポートがよくされていたこと。
・地域包括ケアの推進のため、医療職や他部門の関係機関を講師に、様々なテーマで地域ケア推進会議や勉強会を開催したこと。
・地域にある大学と連携し、学生の得意分野を生かしながら事業を進めていること。

②次年度以降力を入れて欲しい点
・高齢者支援センターだけでは解決が難しい「8050 問題」等の問題に対応していくため、今後も勉強会等を継続し、他機関からの情報の蓄積や対応スキルの向上に向けた取り組みを行ってください。
・忠生地区のネットワークの構築の為、引き続き、忠生地区への見守り支援ネットワークの普及啓発を進めていってください。

2021年度忠生第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1　担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】 地域住民の高齢化にともない、特に8050問題を含んだケースの相談件数が増加している。親の高齢化による体力および認知機能の低下の問題だけでなく、子どもの問題（長期ひきこもり・精神疾患等）や、子どもによる経済的搾取を中心とした虐待ケースが発生して問題がより複雑化している。これまで子どもへの支援が高齢者支援センターの範疇ではなかったこともあり、エアポケットな状態である。今後の課題として、同じ悩みを持つ当事者同士で交流する場を作ったり、子どもへの支援体制の構築、また当事者だけではなく、地域住民への「8050」問題に対して、差別のない自分事としての理解促進も課題になっている。
【現状と課題②】 JAGESによると、忠生第2エリアは独居者割合、孤食者割合、低所得者割合、家族を介護している人の割合が市内では突出して高い。困った時に相談する人がいない、公的な相談機関を知らないという人が多いと思われ、支援センターが関わる時には課題が複合的になっており、適切な医療や介護、生活支援につなぐまでに時間を要することが増えている。 自分や家族だけで課題を解決することが困難な方も、権利が護られ文化的な生活を送ることができるよう、住民に地域の課題を知ってもらい一緒に考えていく必要がある。 また、町内会・自治会加入率は市内で一番高いものの、連帯感を感じる割合は市内で一番低い。町内会・自治会の活性化を図る必要がある。
【現状と課題③】 山崎町、木曽東にある団地は築50年以上が経過しており、いずれの団地も高齢化率が50％に迫っている。また高齢者のみ世帯、単身世帯が増えている。 KDBデーターによると、要介護者の有病状況では①心臓病（59.2%）②筋・骨疾患（51.8%）③精神疾患（37.1%）④糖尿病（23.4%）となっており、精神疾患を持つ住民が多く、喫煙率や飲酒率も高くなっている。令和元年後期高齢者医療加入者データーによると健診、病院未受診者割合、介護認定なし、介護給付なしの割合が7.1と12センター中一番高い。日常業務の中では、親族との繋がりがなく、経済的に困窮している未受診者への受診同行が増えている。また近隣住民からの安否確認が頻繁に入り、孤独死に至るケースもある。見守り機能を備えた自主グループ活動の立ち上げや、既存のグループへの支援の必要性が高い。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<table>
<tr><td colspan="2">取組名①</td><td colspan="2">8050 世帯を孤立させない町づくり。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">8050 世帯を孤立させない町づくりを実現化していくために、関係機関との連携強化と、当事者の声を聴き、同時に地域住民に向けて理解を広げていく。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">① 8050 問題から見えてくる課題に対して関係各機関と定期的な情報交換会を開催して情報共有を図る。
② 経済的に依存せざるを得ない生きづらさを抱えた中高年と暮らす親を対象に、語らいの場を今後も継続していく。
③ 地域住民に向けて理解を促すため、「8050 問題」が地域の身近な問題であることを知り、差別・偏見のない自分事の問題であることを語り合う「場」（老人会・サロン等）を設ける。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">① 関係機関との「情報交換会」
②「親の声を聴く会」
③「地域住民向け 語らいの場」</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td colspan="2">① 年3回 ②年 4 回③年 1 回～2 回</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実績</td><td>実績値</td><td colspan="2">① 年 9 回 ②年6回 ③3回</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">① ・1月に保健所や生活援護課、障がい者支援センターを交えた地域ケア推進会を予定。その後、障がい者支援センターと年度内に 2 回勉強会を実施予定。
・偶数月にオンラインで地域情報交換会を実施。KHJ 町田家族会、ゆどうふ、当事者、サービス事業所などが参加し、事例を交えながら情報交換を行った。
② 「未来語りの親の会」を毎月第 3 水曜日（緊急事態宣言時除く）に実施。3～5 名の参加者同士が当事者として感じていることなどの情報交換を行った。
③ ・12 月に「地域で支え合う ひきこもり 8050 問題」をテーマに地域ケア推進会議を実施。OSD よりそいネットワークの磯野氏を講師に招き、意見交換を行った。
・老人会の定例会や出張講座で、「8050 問題」にふれ、話し合う時間を持った。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">「8050 問題」は当事者だけの責任ではなく、社会的な背景も関連しているため、偏見を持たない地域にしていくために、地域住民の意識を変えていく必要がある。「8050 問題」が身近な問題であることを地域住民に説明する際に使用できる、わかりやすい資料づくりなども進めていく必要がある。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名②</td><td colspan="2">住民の幸福感が上がり、生活しやすい地域の基盤づくり。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">誰でも困りごとが大きくならないうちに相談することができ、衣食住に困ることなく、生活を送ることができるよう、セーフティネットの仕組みを地域の人とともに考える。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">① 生活状況が悪化してから相談するのではなく、困った時にどのような制度が利用できるのかを地域住民に周知し、「備え（見守りなど）」を皆で考える場を作る。
② 地域住民が気軽に集うことができる拠点を確保し、支援センターから遠い場所に住んでいる人も相談できる環境を作る。
③ 町内会・自治会内で見守り体制が構築できるよう、見守り講座を開催する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">① 「備え」について考える場を持つ。
② 出張相談会の開催。
③ 見守り講座の開催。</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td colspan="2">① 年 3 回　② 年 3 回　③年 1 回</td></tr>
<tr><td rowspan="6">実績</td><td>実績値</td><td colspan="2">① 年 4 回　② 年 7 回　③年 3 回</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">① 10 月、11 月、12 月、1 月に木曽住宅集会所で「暮らしのミニ講座」を開催。健康や暮らしに必要なお金などをテーマに「備え」について地域住民とともに考えた。
② 7 月から毎月山崎団地第 1、第 2 集会所で「出張相談会」を開催。高齢者支援センターから遠い場所の住民も気軽に相談できることを目的に開催した。
③ ・町田木曽住宅ト号棟と自主活動グループ「芋づる会」で見守りミニ講座を開催。2月に境川団地住民向け見守りレギュラー講座を開催予定。
・11 月に境川団地で見守りに関する地域ケア推進会議を開催。見守りの在り方について検討を行った。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">・「備え」について考える「暮らしのミニ講座」は参加人数が 10 名前後と少人数であるが、参加した人から「備え」について周囲の必要な人に伝えるよう、声掛けを行った。また、参加者から若い住民もいるが関わりが希薄、と話しがあった。高齢化が進んだ地域の活性化のためにも、幅広い世代の住民に周知しながら来年度も継続する。
・見守りに関する地域ケア会議推進会議の中で、若い参加者の方から「どの棟にどれくらいひとり暮らしや高齢者のみの世帯が存在するのか、高齢化率はどうなっているのかを知ることで、地域住民の見守りに対する意識が変わってくるのではないか」との意見があった。高齢者同士の支え合いだけでは限界があるため、地域の中からキーパーソンとなりえる若い世代の人材発掘を継続して行う必要ある。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名③</td><td>通いの場づくり、健康や介護予防普及啓発。自主グループ内での支えあい支援。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="2">目標</td></tr>
<tr><td colspan="2">① 健康づくりのための生活習慣見直し、介護予防の必要性を理解する場の提供。
② 自主グループ活動再開への支援を行う。
③ 住民が気軽に通える多様性のある通いの場づくりを行う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="2">① 健康・介護予防の普及啓発　介護予防月間地域型イベント・介護予防啓発講座の実施。
② 自主グループ内での支えあい支援　自主グループのメンバーが認知症等になっても活動を続けられるような支援を行う。
③ 住民主体の通いの場づくりを住民になげかけていく　特に男性が通える場を増やす。資源マップの情報提供。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="2">① 介護予防普及啓発講座数②グループ内交流会数③グループ立ち上げ数</td></tr>
<tr><td rowspan="6">実績</td><td>目標値</td><td>① 年2回 ② 年9回 ③ 年1件</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td>① 年5回 ② 年8回 ③ 年1件</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="2">① 介護予防月間地域型イベントは「にこにこ健康フェスティバル 2021」を実施。約215名の地域住民の参加があった。歯科講座は21名の参加があった。介護予防普及啓発講座は6月、11月 12月に実施した。
② 11月に自主グループ情報交換会を実施。24グループ、36名が参加。心配や悩み事に関してグループワークを実施。メンバー間の見守りや支え合いについても話し合った。自主グループ活動を担っている介護予防サポーター活動推進会議を5回実施、今後2回の実施を予定している。
③ 男性の通える場づくりが実施できていない。検討中。「いきいきお役立ちマップ」を作成。情報を定期的に更新し活用している。11 月明和会へ町トレ応援講座を実施し、自主グループが1件立ち上がった。</td></tr>
<tr><td colspan="2">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="2">・新型コロナウィルス感染拡大の影響で、年度前半は集合型の集まりを実施することができず、計画していたようなグループの立ち上げに至らなかった。男性の通える場づくりは必要なことであるため、来年度も継続して取り組んでいく。
・高齢化が進む中で自主グループ内の支え合いはますます必要になるため、今後も継続してグループに投げかけていく。</td></tr>
</table>

3　地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数（企画会を除く）	5　回
検討する課題（決まっている場合のみ）	
複数ある場合は、箇条書きで記載してください。	

4　市のコメント

①特に評価できる点

・コロナ感染症流行中においても、介護予防サポーターや大学生等ボランティアと準備を進め「にこにこ健康フェスティバル21」を開催できたこと。

・8050問題において、当事者や NPO 法人ゆどうふを含めた関係機関で情報交換を行うことができたこと。

・後見人の申し立てが、年間18件あり、日々の相談業務以外に、普及啓発活動もしっかり行えていること。

・センターの職員同士で、記録を残して情報共有しており、難しいものに対しては複数で対応している所が評価できること。

②次年度以降力を入れて欲しい点

・8050問題については、当事者含め、関係機関や地域で、勉強会や地域ケア推進会議等の開催を続けていって下さい。

・高齢化が進む中で、若い世代を含む幅広い年齢層を巻き込んで地域づくりを行っていって下さい。

2021年度鶴川第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1　担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】 健康長寿医療センター・JAGES 調査データをもとに担当エリアを町別に分析すると小野路町・野津田町は通い場数が他の地域に比べて少なく、スポーツ・趣味の会等への参加が町田市平均を下回っている現状がある。また両町ともに成人健康診査受診率が低い。これは医療機関が少ないことも要因の一つと考えられるが、健康管理や介護予防への意識の低さの表れと言える。この現状の課題解決として住民同士の支え合いを利用した通い場を増やすことや既存団体の継続・再開支援を行うことが必要である。過去 3 年間で両町に 4 団体の自主グループ立ち上げ支援を行ったが、コロナの影響で活動縮小や休止しているグループもある。住民が安心して参加できる環境下での通い場立ち上げ・支援に取り組む必要がある。
【現状と課題②】 8050 問題のように高齢者を含む世帯員全員への支援を要する相談対応が増加している。世帯の中で核となっていた高齢者の要介護状態、認知症発症といった課題の発生と同時に、同居家族のひきこもり、経済的困窮、住環境の問題、高齢者への虐待等の課題が浮き彫りになり、高齢分野に加え他分野からの支援が必要となる。高齢者支援センターは社会的孤立事例を発見しやすい立場にあるが、世帯全体の支援を担うことは難しい。多分野の支援機関による連携が必要となるが、高齢分野以外の機関との連携・協働が十分とは言えない現状である。世帯が抱える課題を整理し、より円滑に支援できるよう支援方法等についての検討や地域課題として共有していくための支援機関同士のネットワーク構築を強めていく必要がある。
【現状と課題③】 コロナ禍で地域の見守り体制が十分に発揮できず、近隣・親族からの相談に加えて行政機関や消防・警察等からの安否確認の依頼や緊急連絡先の問い合わせが増えている。認知症高齢者の無断外出、独居世帯での事故死・自然死も増加傾向にある。あんしんキーホルダーは初期対応に必要な情報を高齢者支援センターが把握することができ、登録や扱いも簡易で利用しやすいツールであるが、鶴 1 エリアでは広報・周知が不十分で保有率がすべての町で高齢者人口比 15%以下となっている。今まで行っていた講座・個別相談対応時や広報媒体による普及活動に加え、実態把握訪問やグループ活動、店舗等を利用しての出張登録会等、地域に出向いて登録数を増やす新たな取り組みが必要である。また、長期登録者の状況確認も課題となっている。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<table>
<tr><td colspan="2">取組名①</td><td colspan="2">重点地区である小野路町、野津田町での自主グループの立ち上げ</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">介護予防・健康づくりのため、重点地区での通い場の充実を図るための自主グループ立ち上げと、成人健康診査の周知を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">介護予防や生きがい・健康づくりに地域の身近な場所で取り組みたいという地域ニーズがあるが、小野路町、野津田町は高齢者人口に対しての通い場数が少なく、健康に関しての意識や関心が低い状況であるため、安心して継続参加できる環境での通い場立ち上げ支援を行う。小野路町では、まちだ丘の上病院が運営している「ヨリドコ」を拠点とし、フレイルチェック会、生きる力アップ教室の実施を経て自主グループ立ち上げを目指す。野津田町では野津田あんしん相談室を立ち上げに関する相談拠点とし、自治会や老人会、また介護予防サポーターとの協働により自主グループの立ち上げを目指す。あわせて講座開催時や、前年度の実態把握訪問で不在であったお宅のみを再度訪問し、成人健康診査のパンフレットを配布する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">① 小野路町、野津田町での町トレ自主グループ立ち上げ
② 成人健康診査の個別案内</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td colspan="2">① 2か所 ② 195件</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実績</td><td>実績値</td><td colspan="2">① 3か所(うち2か所は1・2月立ち上げ予定)
② 338件</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">① 予定していたフレイルチェック会・生きる力アップ教室は緊急事態宣言により中止となったため10月にヨリドコ小野路宿を会場に短期介護予防教室を実施したことにより、ラジオ体操自主グループ『SUN☀SUN』が立ち上がった。2022年1月～2月に小野路町下堤周辺で短期介護予防教室を開催し、自主グループ立ち上げ予定。また同時期に薬師台1丁目にて町トレ応援講座を開催し、自主グループ立ち上げ予定。
② 8月から野津田町の成人健康診査未受診者を含む75歳以上の方338名(うち未受診者22名、未受診者は65歳以上を対象)の実態把握訪問を実施した。訪問では、直接もしくはポストインにより、成人健康診査やあんしんキーホルダー、高齢者支援センターの普及啓発を行った。対面できた方には支援センター独自で作成したアンケート調査を行い、介護予防に対する意識確認や地域課題の発掘に繋げた。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
</table>

	野津田町での実態把握の際に行ったアンケートの結果を踏まえ、自主グループ立ち上げ支援を継続したいが、新型コロナの影響で住民同士の関わりが減少していて、また、地域の会合等に支援センターが介入することが難しくなっている。そのため、野津田地域については住民との関係を再構築していく必要がある。住民同士の関わりの機会が無くならないよう意欲はあるが、活動休止しているグループへの再開支援は継続していく必要がある。

取組名②	複合的課題を抱える世帯への包括的な支援体制づくり

計画	目標	
	高齢分野だけでは解決が難しい複合的な課題を抱える世帯について多分野の関係機関が協力して対応できるよう、ネットワークの構築を行う。	
	2021年度の取組	
	8050 問題のように複合化・複雑化した課題を抱える世帯を包括的に支援するため、鶴川圏域で分野を超えた支援機関との協議体を立ち上げ、包括的な支援をしていくための検討を行う。 具体的には、医療や保健、障がい、子どもといった多分野の関係機関に打診し、鶴川第2高齢者支援センターとの協働にて地域ケア会議として、8050 問題等の地域課題を共有する連携会議を実施する。 また、課題を抱える世帯への具体的な支援方法の検討や支援者のスキルアップを目的とした研修を実施する。	
	活動指標	
	① 多分野の関係機関との連携会議開催 ② 支援に関わる研修会の実施	
	目標値	① 1 回以上 ② 1 回以上
実績	実績値	①2 回 ② 1 回(3 月予定)
	2021年度の成果	
	① 鶴川第 1、鶴川第 2 高齢者支援センターで企画し、鶴川保健センター、鶴川地域障がい者支援センターとの「鶴川圏域相談支援機関意見交換会」を 9/24 に開催し、各機関での対応の現状・課題等について意見交換を行った。他の機関に比べ介入の機会や手段の多い高齢者支援センターが課題発見のきっかけとなることが多く、その後は各機関の連携・協働が必要なことを再確認した。今後も定期的に開催することになり、2 回目を 12/24 に開催した。 ② 8050 問題への支援力向上を目的とした研修を法人内の 5 ヵ所の包括職員を対象に企画。今までの関わり等から講師を調整し、2022 年 3 月 3 日開催予定。また他団体主催ではあるが、『8050 問題』に関する研修や意見交換会等に参加した。	
	2022年度に向けた課題	

	・意見交換会は、今年度 2 回の開催となり、お互いの現状の共有が中心であるが、次年度はより有効な意見交換の場となるよう議題や内容について会全体で検討していく。 ・職員のスキルアップについては研修参加のみでは不十分なため、内部・外部研修に参加することに加えて、ケース対応の振り返り・スーパービジョンによる人材育成を検討する。

取組名③	あんしんキーホルダーを活用したセーフティネット機能の強化	
計画	目標	
	地域の中で安心して暮らすことができるよう、あんしんキーホルダー登録者を増やし、関係機関からの問い合わせに速やかに対応できる体制の強化を行う。	
	2021年度の取り組み	
	あんしんキーホルダーの更なる普及を進める為、広報誌による周知に加え、高齢者支援センター職員が新規ケース面談時や実態把握訪問時に個別に周知していく。また口コミにより周知されることが多く見受けられることから、民生児童委員や地域のケアマネジャーへ周知の協力を依頼する。また、これまで登録会を実施したことの無い地域や、エリア内で最も登録率の低い小野路町を対象に、あんしんキーホルダー登録会を実施する。町田市で目標としている新規登録件数（1センター平均 108 件）を上回る登録数を目標に掲げ取り組んでいく。 長期登録者の状況確認については郵送による現状調査等、効率的な実施方法を検討し取り組んでいく。	
	活動指標	
	① あんしんキーホルダー登録件数 ② 新規地区でのあんしんキーホルダー登録会の開催回数	
	目標値	① 10 件/月（年間 120 件） ② 2 回
実績	実績値	① 15．5 件/月（4 月～11 月、124 件） ② 3 回（薬師池公園、マルエツ、ヨリドコ）
	2021年度の成果	
	①目標値達成のため、センター内に目標値を掲示し、登録書類一式を分かりやすい場所に設置。来所・訪問相談時はもとより、実態把握や広報誌を活用して周知活動を積極的に行った。毎月 2 回開催するセンター内の会議で当月の登録件数を共有し、意識向上に繋げた。4 月 12 件、5 月 11 件、6 月 11 件、7 月 11 件、8 月 13 件、9 月 16 件、10 月 20 件、11 月 30 件と 11 月までに 124 件の登録があった。 ②あんしんキーホルダー登録会は 10/14 にやくし台自治会（防災イベント）、11/17 に薬師池公園、11/26 にスーパーマルエツ町田鶴川店、11/30 にヨリドコ小野路宿の計 4 回開催し、14 名の登録を得ることができた。うち新規（未実施地域）での開催	

	が 3 回となった。登録会を開催することで地域でのキーホルダー周知状況を確認することや支援センターの普及啓発に繋がった。長期登録者の状況確認は、2012年 4 月～2014 年 3 月までの登録者 245 名にハガキを送付し、登録内容の確認を行った。登録者より連絡をもらい、登録内容変更手続きに加え、26 名の廃止手続きを行った。
	2022年度に向けた課題
	実績を可視化することで職員の意識向上に繋がるため、センター内での取組姿勢や取組状況の共有方法について今後も工夫・検討が必要。またあんしんキーホルダー登録会については 7 か所に打診し 3 か所が実施不可であったため、候補場所のリサーチや関係構築を継続し、早い段階から計画し候補先に協議しておくことが有効である。長期登録者の確認は 2 年毎の登録単位で今後も継続していくことが適切なキーホルダーの活用に繋がるため継続していく必要がある。

3 地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数（企画会を除く）	6 回
検討する課題（決まっている場合のみ）	

4 市のコメント

①特に評価できる点

・コロナ感染症流行中でも行える介護予防の自主グループとして、屋外でラジオ体操を行うグループを立ち上げることができたこと。

・地域課題として設定した「コロナ禍におけるフレイル予防」について、地域ケア会議を通じて、解決策を検討し解決に向けた取組を実施できたこと。

・「8050 問題」のように複合的課題を抱える世帯への支援について、「鶴川圏域相談支援機関意見交換会」を開催し、多分野の関係機関と連携して進めている点。

②次年度以降力を入れて欲しい点

・重点地区にあげている野津田町での自主グループの立ち上げに向け、支え合いを利用した通い場を増やすことや既存団体の継続・再開支援を行うなど、新型コロナウイルスの影響で希薄となってしまった住民同士の関わりの再構築を進めてください。

・高齢者支援センターだけでは解決が難しい問題に対応していくため、今年度から始まった「鶴川圏域相談支援機関意見交換会」について、より有効な場となるよう議題等を検討のうえ継続して開催し、他機関との実践的な問題解決につながるよう取り組んでください。

・行方不明高齢者の捜索依頼が最近多い状況にあるため、対象者の早期発見のためにも、引き続き、あんしんキーホルダーの登録者数増加を目指してください。

2021年度鶴川第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1　担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】 生活を支えていた親世代が認知症を発症したり、要介護状態になったりすることで、これまで福祉的な支援と関わってこなかった世帯で、様々な課題が表面化することが増えている。同居家族の引きこもりや、経済的困窮、世帯構成員への不適切な介護状況など、いわゆる8050問題として町田市全体での課題としても取り上げられているが、高齢分野によるアプローチだけでは、子ども、孫世代など他分野での課題を抱える世帯への課題解決が難しくなっている。
【現状と課題②】 各町内会自治会の加入率減少や役員の高齢化、自主グループの高齢化が進み、世代交代がうまくいかず運営自体が危うくなっている。その結果、多世代交流の場が減少し、互いに見守り、支えあう地域力が低下している。若い世代からは町内会自治会やグループ活動に関心はあるが、参画する機会がないとの声もある。 また、2021年1月現在、鶴2エリアでは、29地区のうち8地区で民生児童委員が欠員、その中でも高齢化率45.56%となっている鶴川5丁目が3地区全て欠員となっている。今後ますます孤立していく人が増えていき、SOSをキャッチできなくなっていく可能性が高い。
【現状と課題③】 三輪地区にて地域住民より認知症高齢者の見守りについて不安があると声が上がっている。 地区内にアパートも多く、単身高齢者も多く居住。 活動拠点となる施設が少ない為、徒歩圏内で参加できる自主活動グループが立ち上がり難く、古くからの住民と新しく居住し始めた住民との交流の場が少ない等の課題を抱えている。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<table>
<tr><td colspan="2">取組名①</td><td colspan="2">多問題を抱える世帯に対応できるネットワークづくり</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">高齢分野だけでは解決の難しい、8050 問題などの多問題を抱える世帯に対応できる多分野協働でのネットワークづくり</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">①多問題を抱える世帯に分野を超えて対応できるよう、地域ケア会議を活用する。鶴川第 1 高齢者支援センターと協働し、鶴川圏域内の他分野福祉関係機関と更なる関係強化を行い、圏域内の 8050 問題等の課題の共有をはかる。
②8050 問題等の地域課題を共有する事で、地域で必要な多分野協働での支援体制の構築を図る。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">①鶴川圏域内の福祉関連機関との連携会議の開催
②鶴川地区社会福祉協議会が主催している高齢・障がい・子どもなど多分野の支援団体が集まる福祉情報交換会への参加</td></tr>
<tr><td colspan="2">目標値</td><td>①連携会議の開催　年 1 回以上　②年 12 回参加</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実績</td><td colspan="2">実績値</td><td>①連携会議　2回開催（予定）　②12 回参加（予定）</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">①高齢分野だけでなく、多問題を抱える世帯に他分野の相談機関が協働して関わることが出来るよう、各機関の相談内容や対応方法、役割、職員の専門・担当地区や職務内容などをお互いに理解し、意見交換をする連携会議を継続開催する事となった。（主催：鶴川第 1、鶴川第 2 高齢者支援センター）
②他分野の機関が参加する鶴川地区社会福祉協議会主催の福祉情報交換会へ継続参加する事により、同居している高齢家族に関する通報や相談が支援センターへ寄せられるようになった。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">・多問題を抱える世帯へ分野を超えた機関で関わる事が求められている。今後具体的な個別ケースへの検討なども行えるよう、連携会議の開催を継続し、関係強化が必要。
・福祉情報交換会に参加する団体が増えることで、これまで各相談機関につながりにくかった方が必要な支援に繋がり易くなる為にも、今後も鶴川地区社会福祉協議会と連携して地域の活動団体や相談機関の普及啓発が必要。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名②</td><td>多世代交流ができる場づくり</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="2">目標</td></tr>
<tr><td colspan="2">子育て世代との交流、他の年代へのアプローチができるグループ作り
多世代で見守り、支えあえる関係性づくり</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="2">・鶴川地区協議会で毎月第3水曜日にポプリホールで開催している3水スマイルラウンジでの鶴川子育て相談センターと高齢者支援センター合同イベント（2～3回/年）の継続。
・2020 年度中止、延期となった地域介護予防教室を開催し、読み聞かせの自主グループを立ち上げる。
・自主グループ立ち上げ後、グループの活動の場になりうる施設の発掘、協力依頼
・多世代交流につながる自主グループに向けて見守り普及啓発講座を開催し、子どもから高齢者まで互いに見守りあえる関係性づくりの意識付けを行う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="2">①多世代交流が期待できる自主グループの立ち上げ
②見守りへの意識づくりのための見守り普及啓発講座の開催</td></tr>
<tr><td rowspan="2">実績</td><td>目標値</td><td>①読み聞かせ自主グループ立ち上げ　1ヶ所
②自主グループへの見守り普及啓発講座　1回</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td>①　読み聞かせ自主グループ立ち上げ　0ヶ所
②自主グループへの見守り普及啓発講座　1回</td></tr>
<tr><td rowspan="4"></td><td colspan="2">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="2">①　感染拡大防止の為地域介護予防教室は開催を中止。自主グループの立ち上げはできなかった。　次年度開催予定。立上げ予定の自主グループの多世代交流の場として3カ所協力頂ける事となった。
②　圏域内の自主グループ代表者の集まりに対して 1 回実施。鶴川第 3 小学校、鶴川第二民生児童委員協議会へ見守り普及啓発講座を各 1 回ずつ開催し、世代を超えた見守りの意識づくりを行った。
③3水スマイルラウンジにて感染拡大防止に配慮した形で多世代交流合同イベントを7月、11月に開催し、3月にも開催を予定。</td></tr>
<tr><td colspan="2">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="2">・コロナウィルスの感染状況によって、SNSなどのオンラインツールを活用した地域介護予防教室開催の検討が必要。
・オンラインツールを活用したいが、機器の操作など不慣れな高齢者の方が多く、利用の為の支援が必要。町ネットサポーターと連携して支援出来るよう働きかける必要がある。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名③</td><td>三輪地区での支え合い連絡会の開催</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="2">目標</td></tr>
<tr><td colspan="2">三輪地区における既存のグループ活動の把握と支え合いの仕組みづくり</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="2">①三輪地区内で行われている交流の場と自主活動団体を把握し、センターとの関係づくりを行う
②町内会自治会、老人会、民生児童委員、介護保険サービス事業所、自主活動グループ等に地域の現状を伝え、地域の見守りや認知症への理解を高める為、支え合い連絡会を開催する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="2">①自主活動グループ（町トレ2か所、体操１か所）への訪問数
②支え合い連絡会の開催数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>①各グループ年１回以上　②年１回以上</td></tr>
<tr><td rowspan="6">実績</td><td>実績値</td><td>①体操１ヶ所　②2/19 に開催予定</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="2">①体操グループの活動中に 1 回訪問。他のグループに対しては、電話でコロナ禍での活動状況の聞き取り等を行った。
②緊急事態宣言期間中は各団体等と電話でやり取りを行い、状況の把握をしながら 2022 年 2 月に三輪地区の現状や地域課題の共有、活動団体同士の意見交換を目的として開催を予定。</td></tr>
<tr><td colspan="2">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="2">・地区内に単身用アパートなども多く、見守りの目が届きにくい地区となっている。
・感染状況により、自主グループの活動再開、継続など活動状況の把握が必要。
・次年度以降三輪地区での支え合い連絡会を継続的に開催出来るよう支援が必要。</td></tr>
</table>

3　地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数（企画会を除く）	6　　回
検討する課題（決まっている場合のみ）	
複数ある場合は、箇条書きで記載してください。	

4　市のコメント

①特に評価できる点

・地域課題として設定した「コロナ禍におけるフレイル予防」について、地域ケア会議を通じて、解決策を検討し解決に向けた取組を実施できたこと。

・8050 問題への取組として、多分野の支援団体が集まる鶴川地区の福祉情報交換会へ積極的に参加し、他の機関からの同問題に関する相談や通報を受けるようになったこと。

②次年度以降力を入れて欲しい点

・高齢者支援センターだけでは解決が難しい問題に対応していくため、今年度から始まった「鶴川圏域相談支援機関意見交換会」について、より有効な場となるよう議題等を検討のうえ継続して開催し、他機関との実践的な問題解決につながるよう取り組んでください。

・自主グループの立ち上げについて、新型コロナウイルスの影響で今年度は実現ができていませんが、感染症等、社会情勢を見ながら、多世代交流ができる場の創出をお願いします。

2021年度町田第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1　担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】 新型コロナウィルス感染拡大による外出自粛の長期化・地域活動の縮小により、これまでの地縁やネットワークが脆弱化している。そのことにより地域全体で対人コミュニケーションが図りにくい状況となり独居高齢者が孤立するリスクがある。特に見守り未実施の地区でまだ介護サービスに繋がっていない方等に対するアウトリーチ強化が必要である
【現状と課題②】 新型コロナウィルス感染拡大による外出自粛の長期化・地域活動の縮小によりフレイルの進行が懸念される。外に出て地域活動へ参加することや各講座等へ繋ぐという従来の手法では高齢者の運動機会を維持することができない。高齢者自らフレイル予防に取り組めるよう意識高揚を図り、自宅で出来る・一人でもできる取り組みを紹介することが必要である。ネット環境が整わない高齢者に届く情報提供が求められる。
【現状と課題③】 個別地域ケア会議において、中町 1,2 丁目に通いの場が少ないことが地域課題として挙がった。駅近く、様々な規模のマンション・サ高住がある 1 丁目と戸建て住宅が多い 2 丁目は町内会・老人会を同じくする地域であり、この地域のニーズ把握と社会資源開発の可能性について検討が必要である

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<table>
<tr><td colspan="2">取組名①</td><td colspan="2">重点地区に対するアウトリーチを強化する</td></tr>
<tr><td rowspan="7">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">重点地区を設置し、アウトリーチを強化する。実態を把握し地域への働きかけに生かす。効果的なアウトリーチを行う</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">【重点地区設定】
・原町田 2 丁目…町内会老人会にて見守りを実施したい希望があるが、構築に至っていない。老人会活動が低迷しているという相談があることから実態把握を行い、地域での話し合いに繋げる。
・新日東自治会…住所地境界にあり、旭町 2 丁目であるが見守りを実施している旭町 2 丁目町内会とは分かれている。2020 年度相談が増加している。
・重点地区に対して、見守りデータを基に 75 歳以上・独居又は高齢世帯・介護介入がない世帯を地域訪問し実態把握を行う。
・感染予防やフレイル予防（時期によっては熱中症予防）のリーフレットを配布する。
・生活課題や見守り意識を聞き取る質問票を作成する。
【見守り支援ネットワーク】
・定例会休止中のネットワークに対して再開支援を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">対象地区対象者の全戸訪問</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td colspan="2">対象地区対象者を 1 度は訪問する</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実績</td><td>実績値</td><td colspan="2">新日東：高齢者のいる世帯を全戸訪問、原町田 2 丁目：独居高齢かつ介護介入なし世帯を訪問（年度内実施予定）、中町1・2丁目：独居高齢かつ介護介入なし世帯を訪問</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">新日東自治会地区では 21 人、中町1・2丁目では 82 人に対して訪問を行った。その際、支援センターの周知を図り、あんしんキーホルダーの登録や地域活動の紹介を行った。原町田2丁目は、訪問するにあたり町内会・民生委員と情報を共有し、1月より開始する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">個別訪問により、地域活動・交流の場についてのニーズが多く確認された。また見守りニーズがある独居高齢者の発見にも繋がった。新日東はセンターエリアの境界線にあり、相談先が分かりにくいといった課題もある。その他の課題整理も行い、必要に応じた見守り講座や認知症サポーター養成講座等の開催による啓発活動が必要である。住民と意見交換できる機会を設け必要な活動や人材発掘を図りたい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名②</td><td colspan="2">介護予防の情報を高齢者に届くよう発信する</td></tr>
<tr><td rowspan="7">計画（変更後）</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">『フレイル予防通信（仮）』の発行</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">〇フレイル予防の重要性や取り組みのポイント、自宅で出来る体操等を紹介した『フレイル予防通信』を発行する。記事作成にあたっては地域の専門職の協力を仰ぐ。作成したお便りを活動中止中のグループメンバーへの配布、デイサービスを休んでいる要支援高齢者へ配布、アウトリーチ訪問での配布を行う。

〇休止中グループへの再開支援を行う</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">『フレイル予防通信（仮）』の発行・配布数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>500 部配布</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実績</td><td>実績値</td><td>2500 部配布</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">「フレイル予防通信」の記事を PT,歯科医、管理栄養士に寄稿頂き作成した。計画していた対象者の他に病院・調剤薬局・サービス付き高齢者向け住宅・スーパー・町内会・老人会・自主グループ・せりがや会館・訪問看護ステーション等での配布、町内会 HP への掲載など高齢者に情報が直接届くよう周知を行った。また、地区協議会との協働でオーラルフレイル予防講座を開催した。
36 グループのうち 22 グループが休止していたが、会場の変更や感染予防の助言など支援を行い 10 グループが再開した。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">「フレイル予防通信」の対象範囲を大幅に広げ、なるべく多くの方に情報発信できるようにし、お届けした方からは見やすくてわかりやすいと好評をいただいた。行動変容に繋げるには更なる働きかけが必要と思われる。
コロナの影響にて 2 グループが活動終了となった。今後も介護予防・感染予防の情報発信を続けて、また発信方法も工夫していくことが必要である。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名③</td><td colspan="2">中町 1.2 丁目の通いの場ニーズ調査を行う</td></tr>
<tr><td rowspan="7">計画（変更後）</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">個別地域ケア会議で上がった中町1，2丁目に通いの場が少ないという課題に対して実態を把握し、該当地区に住む高齢者のニーズ調査を行う</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">〇中町 1,2 丁目の町内会（中町中央町内会）と老人会（万葉会）に対するニーズ調査を行う。エリア内にあるサ高住 2 か所にも通いの場のニーズがあるか？活用できるスペースがあるかを調査する。

〇把握したニーズに応じた働きかけを行う。

〇駅周辺でのラジオ体操拠点を把握する</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">対象地区の町内会・老人会・サ高住へのアプローチを行う
今後の取り組みを話し合う支えあい連絡会の開催</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td colspan="2">支えあい連絡会の開催 1 回</td></tr>
<tr><td rowspan="6">実績</td><td>実績値</td><td colspan="2">支え合い連絡会の開催　1 回</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">町内会・老人会・民生委員・健康作り推進員・サ高住支配人等の参加を得て支えあい連絡会を開催した。地域交流・活動場所が少ない、町内会・老人会の担い手の高齢化により次世代の担い手不足、地域での見守りの強化が課題として挙がった。サ高住からはデイサービスやカフェスペースの空き時間に地域活動に開放したいという提案もあり、マッチングを行う予定。前年度からアウトリーチや支え合い連絡会で働きかけを行い、中町 2 丁目の葬祭施設が開放され、町トレが開始された。ラジオ体操はコロナによる休止もあり、1 月に各実施者に対して実施状況の確認を行う予定である。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">町内会、老人会ともに、高齢化による次世代の担い手不足が課題となっている。幅広い年代の方に地域作りに関心を持って頂くこと、地域活動を担える人材の発掘が課題といえる。また、地域とのつながりが薄い方や体力がなく行動範囲が狭い方、相談しようという意思が持てない方などに対してどのようにアプローチしたらよいか、小さな気づきを大切にしてお互いの助け合い・見守りの目をどのように増やしていくか、今後継続して話しあっていく必要がある。</td></tr>
</table>

3　地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数（企画会を除く）	2回
検討する課題（決まっている場合のみ）	
○医療介護連携を通したフレイル予防の取り組み ○8050 問題について関係機関との連携会議	

4　市のコメント

①特に評価できる点

・重点地区の高齢者に対する個別訪問を着実に実施し、見守りニーズがある独居高齢者の発見のほか、地域活動・交流の場についてのニーズを確認したこと。また、地域の課題を理解し、戦略的にアウトリーチをしていること。

・重点地域に定めた「中町1・2丁目」に対し、地域住民の意見を聞く機会を設け、地域住民も課題として認識している「地域交流・活動場所が少ない」という課題に対応し、町トレグループを立ち上げることができたこと。その際、葬祭施設などの民間の地域資源も活用したこと。

・高齢者を対象としたオンライン講座を開催するなど、感染リスクの無いオンラインの取り組みをうまく利用できていること。

②次年度以降力を入れて欲しい点

・見守り普及啓発講座や認知症サポーター養成講座等による啓発活動の機会を生かしながら地域住民と意見交換を行うなどして、今後の必要な活動や人材の発掘や育成につなげてください。

・商業施設からの問い合わせや通報が少ないといった地域特性を理解されているので、次年度も継続して課題解決に取り組んでください。

2021年度町田第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1　担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】 本町田地域には 17 地区からなる本町田町内会があり、町内会に所属していない自治会や地域に関しては高齢者支援センターの窓口認知度が低い傾向が伺える。宅地開発が特に進んだ 30～40 年前から住んでいる世代が転居や死去で離れた家には新たに宅地開発が進み若い世代が移り住む新興住宅地も近年増え始めてきたが、一方で高齢化は 32%を超え年々右肩上がりの現状がある。地域に根付いた高齢者の相談窓口になることが地域に対して取り組むべき課題であると捉えている。（本町田地区全域の課題且つ、未開拓地域における課題）
【現状と課題②】 本町田地域には医療施設が少ない。また、町田市関係課や町田市の医療職団体で行う研修会は中央地区での開催が多いことから、本町田地区からはバスに乗り継ぎ出かけていかなければならず、参加する地域住民が少ない傾向がある。そのため、地域の医療機関の専門科などの情報や医療に関する知識を得にくく、身近に情報を得る機会が少ないことが課題である。 また、センターでは介護に困っている家族介護者からの相談を受けることが多く、情報不足により課題を抱えているケースが見受けられることから、家族介護者に対して、医療や介護の情報を周知していく必要性がある。 （本町田地区全域）
【現状と課題③】 障害者手帳の交付率は年々増えている現状があり。障がいサービスを利用し生活している地域住民が65歳を区切りに介護保険制度におけるサービスに切り替えていくことになることについて相談・不満の声も多く聞かれている。介護保険に基づく支援者・関係機関も他法・他制度に関して知識や経験が不足している現状もある。高齢者を支える支援者・関係機関について、障がいサービス関係機関との連携体制と専門機関同士の知識・経験不足が課題。（本町田地区全域）

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<table>
<tr><td colspan="2">取組名①</td><td colspan="2">地域アセスメント及びフレイル予防事業の実施</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">センターとの関わりが希薄な地域に対して、「介護予防の実践」を地域に定着させること。そのプロセスを通してセンターの周知とさりげない地域の見守りの充実を図る。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">・重点地域　今井地区　について以下の取り組みを行う。
（松が丘自治会及びみはらしの丘自治会周辺地域）
・自治会長に対して広報誌をツールに訪問し、顔の見える関係づくりを図る。
・自治会に対してアンケートを実施し、住民の声の収集を図る。
・フレイルチェック会、介護予防地域型イベントをそれぞれ開催する。
・地域ニーズに合わせて自主グループの立ち上げ支援を行う。
・実態把握訪問の実施。
上記取り組みを通して地域アセスメントを進めるとともに、地域住民へのセンターの周知、閉じこもり高齢者との減少、フレイル予防の促進を図ります。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">①自治会長や地域のキーパーソンとの打ち合わせや会議の回数
②介護予防事業の実施数
③フレイルチェック会、介護予防地域型イベント参加者数</td></tr>
<tr><td rowspan="6">実績</td><td>目標値</td><td colspan="2">年 4 回以上、3 事業、延べ 45 名</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td colspan="2">年 2 回、4 事業、延べ 71 名</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">・新型コロナウイルス感染症の再流行に伴い先方からの断りなどがあり予定より会合の場は持てなかった（年 2 回実施）が、重点地区でフレイルチェック会と介護予防月間地域型イベント（栄養講座）を開催することができた。
・フレイルチェック会には 6 名、介護予防月間地域型イベントには 10 名の参加があった他、介護予防普及啓発講座に 5 名、独自事業で行った「さりげない見守り・オーラルフレイル予防講座（オンライン）」に 50 名の参加があった。（4 事業、延べ 71 名）
・アンケート等から得たコロナ禍でもできる地域活動ニーズに合わせて、下期に「オンラインツールについての個別相談」や「町ネットサポーター養成講座」を実施。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">・「通い・集いの場」の立ち上げについて、コロナ禍においては様々な課題に直面することが分かった。人との距離、感染症対策にかかる費用負担、活動場所が制限される、活動していない近隣者の目による制約がある、等。参加する方だけでなく、参加されない地域住民や関係機関について、介護予防活動の意義や情報に対しての理解が不足していることが課題。
・色々な諸活動の ICT 化が進む中で、オンラインツールの活用が難しい地域住民が孤立しやすい現状がある。どのように繋がり、その声を取得するかが課題。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名②</td><td colspan="2">家族介護者教室等や広報誌の配布を通じた医療・介護情報の周知</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">地域住民や家族介護者の方に介護や医療を身近に感じてもらうこと、医療情報が得やすい環境づくりを進める。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">・広報誌の配布を通じ、医療と介護の相談先として「高齢者支援センター」を周知する。
・介護や医療の相談に対応できるよう2職種以上の職員で家族介護者交流会に携わっていく。また、交流会の参加者に、どんなことが知りたいか、どんなことに困っているか意見を聞き取り、その意見を家族介護者教室の内容に反映させていく。
・家族介護者教室では、ニーズに応じて外部講師と連携し、医療と介護の情報発信を行っていく。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">・広報誌発行部数
・家族介護者交流会及び介護者教室の開催数
・参加者アンケートの満足度</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td colspan="2">・100 部　・年6回　・6割以上が満足と回答</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実績</td><td>実績値</td><td colspan="2">・延べ 1,200 部　・年1回　・7 割以上が満足と回答</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">・コロナ禍につき集うことが難しかったため、紙面広報に重点を置き取り組んだ。
・参加歴のある介護者や新規相談者の方に家族介護者交流会や教室についての意向聴取などを四半期毎に行ったが、コロナ予防等を事由に参加ニーズが高まらず、どのような内容で開催するかという企画を中心に2月に本年度1回目の交流会を開催。そのため、「開催アンケート」から「開催に向けてのアンケート」に切り替えて実施。アンケートでは、オンライン開催は参加したいと思わない、個々の介護状況の報告や相談、介護施設や介護費用について知りたいなどの回答を得た。
・全国×まちだ D サミットについてパブリックビューイング会場をセンターとして開所、家族介護者の方が認知症や介護を学習できる、情報交換できる場の提供を行った。参加者は2会場12名で、更に意見交換の時間を上映時間外設けた。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">・感染症の流行が続いた場合、地域交流や集う機会が少ない。
・センターで関りのあった家族介護者には高齢の方が多く、ZOOM 等オンラインツールの使い方が分からないこと等を事由にオンラインでの参加意欲が高まらない。
・結果、地域で情報を得たい方や得る必要がある方が情報不足に陥る、地域で孤立することが課題。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名③</td><td colspan="2">専門職向け多職種協働勉強会の開催</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">65歳になる障害者の方の現状把握と他制度に跨る関係機関のネットワーク構築及び個別支援力（ケアマネジメント力等）の向上を図る。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">障害福祉サービスから介護保険制度に移行する際の本人への説明や準備不足が多いといった2020年度に抽出された課題に対応して、以下の取組を行う。
・介護保険関連の専門機関、障がい福祉サービス関連の専門機関などによる多職種協働勉強会の実施。
・下記団体等とのネットワーク構築（強化）を重点的に図る。
町田地域障がい者支援センター
居宅介護支援事業所（介護支援専門員）
訪問介護事業所（障がいサービス・介護保険サービスともに利用できる事業所）
・上記取り組みを通して切れ目のない介護サービスの提供を図る。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">・開催数
・総参加者数</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実績</td><td>目標値</td><td colspan="2">・2 回　延べ 40 名</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td colspan="2">・2 回　延べ 58 名</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">・65 歳に到達することで伴う障害者総合支援法から介護保険制度への移行についての勉強会を 5 月に開催。居宅1事業所、訪問2事業所、通所2事業所、町田地域障がい者支援センター、医療と介護の連携支援センターで計11 名が参加し、学習と意見交換を行った。
・町田圏域主任介護支援専門員協議会の運営に町田圏域の幹事として携わりながら、11 月に町田地域障がい者支援センターの方を講師に招き、障がい者支援センターとの連携をテーマとした事例検討・意見交換会を開催、計 47 名が参加した。
・各勉強会及び勉強会の打ち合わせはオンライン会議システムを導入し運用することでコロナ禍でも参集しやすい場づくりに務めた。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">・高齢分野を職域とする地域の支援者の場合、障がい者の支援に携わる機会が少ない。障がい者サービスや障がい者に対する理解や支援経験が不足していることが課題。
・若年者に対する介護保険サービスはあるものの、高次脳機能障害や特定疾病の若年者が参加しやすいコミュニティや活動場所がないことが課題。</td></tr>
</table>

3　地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数（企画会を除く）	2回
検討する課題（決まっている場合のみ）	
複数ある場合は、箇条書きで記載してください。 ・センター単独地域ケア推進会議「65歳になる障害者の制度移行支援を考える（仮）」 ・町田圏域地域ケア推進会議「未定」	

4　市のコメント

①特に評価できる点

・アンケートや聞き取りから地域住民のニーズを把握し、「町ネットサポーター養成講座」の実施と「オンライン相談拠点」を設置し、コロナ感染症流行によるフレイルの予防に取組んだこと。

・例えば、高次脳機能障がいの方は個々で症状が異なるなど対応が難しい側面があるので、本人や家族、支援者側の負担軽減に向けた高度なスキルが求められる。そういった背景も踏まえ、障害福祉サービスから介護保険サービスに移行する方への円滑な支援につなげるため、介護保険関連の事業者や介護支援専門員に対して、障がい者支援センターを講師とした事例検討や関係者間の意見交換会を開催したこと。

・相談支援等に対する記録の書き方について、工夫を取り入れていること。

②次年度以降力を入れて欲しい点

・家族介護者交流会や教室について、家族介護者に対するアンケート結果を踏まえるなどして、参加者の意見を反映した内容での開催に取り組んでください。

・他分野の福祉関係機関との連携体制の充実に向けて、引き続き、多職種協働での勉強会や意見交換会などの開催に取り組んでください。なお、今年度は居宅事業所の参加が１箇所のみにとどまっていたので、今後は参加する居宅事業所を増やすよう努めてください。

2021年度町田第3高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1　担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】 玉川学園・東玉川学園地区において、独居高齢者や高齢者世帯の増加と共に、これまで地域活動を行ってくれていた住民も高齢化し、町内会加入世帯率は 50%を切り、地域活動をする人材が不足している状態です。 地域づくりをするための若い世代を取り込めていないことが課題となっています。 また、南大谷地区は比較的若い世帯が増えている地区ですが、一区画が売りに出されると、その区画に十数件の戸建てが建ち、新しい住民が一挙に増える状況です。 新たな転居者と従来から住んでいる住民の交流が希薄なことが課題となっています。
【現状と課題②】 現在町トレは 18 ケ所、約 470 名が参加しています。「町トレ支え合い連絡会」にて「会場が確保できずグループを立ち上げることができない。」との意見が上がっています。 特に玉川学園 7 丁目 8 丁目・東玉川学園地区においては、こすもす会館 1 ヶ所に活動会場が限定されており、坂の途中に立地していることから、参加を断念する高齢者がいるのが現状です。 徒歩圏内にフレイル予防や交流のための集いの場が少ないことが課題となっています。
【現状と課題③】 認知症高齢者を支える家族が、共依存や引きこもり・精神疾患をもっているなどの状況にあるケースが増えています。 介護保険制度を利用している場合でも、日々の介護の中で暴言・暴力、不適切介護、ネグレクト等の虐待事案に発展する危険性を常にはらんだ状況にあります。 また家族自身が介護保険の利用を拒否するケースもあり、支援センターが定期的に連絡を入れて状況確認等を行っています。 支援センターでは認知症サポーター養成講座の開催に加えて、認知症のさらなる理解を深めるために啓発講座を年1回開催していますが、認知症サポーターの活用までには至っていないのが現状です。 地域住民を含めた関係機関との情報共有が不十分なために、認知症の人を早期発見及び支援する機会を損失していることが課題となっています。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<table>
<tr><td colspan="2">取組名①</td><td colspan="2">若い世代が参加できる地域ケア会議等を増やし、繋がりを強化する。</td></tr>
<tr><td rowspan="8">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">若い世代と繋がりを持ち、見守りや地域活動の担い手として活躍できる人材を増やす。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">・新型コロナ感染拡大のため中止となった 2020 年度「防災」をテーマとした南大谷地区の地域ケア推進会議を開催する。開催にあたっては南大谷町内会と町田第 3 高齢者支援センター共催とし、民生児童委員等の協力を得て実施する。
大規模集会は避け、町内会自治会の班を単位とした少人数開催とする。災害弱者に対しては、個別地域ケア推進会議も視野に入れながら、災害時の協力者を募り、地域ケア推進会議を通じて、地域の人材発掘、多世代の繋がりを強化していく。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">南大谷地区地域ケア推進会議開催のための打合せ会議数と地域ケア推進会議開催数。</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td colspan="2">打合せ会議 2 回　地域ケア推進会議 2 回</td></tr>
<tr><td rowspan="4">実績</td><td>実績値</td><td colspan="2">打合せ会議 6 回　地域ケア推進会議 2 回</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">・4・6・8・9・10 月に事前打ち合わせ会議を、12 月に振り返りの会議を開催し、計 6 回の開催となった。
・地域ケア推進会議はコロナ禍で少人数開催とし、同一内容で 10 月 30 日（参加者 24 名）と 11 月 6 日（参加者16名）の計 2 回開催した。地区ごとの特性を鑑みてグループ分けを行い、土砂災害、風水害、地震発生時のそれぞれの対応の仕方や住民が自らできることについて話し合い、今後も継続的に話し合いが必要だという共通認識を得ることができた。小学生の子がいる自治会役員など親世代の参加もみられた。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">・対面と zoom によるオンラインのハイブリッド形式としたが、地域住民からの zoom 参加の希望はなかった。社会福祉法人からの zoom 参加の申込はあったが、当日対面参加となった。地域住民によるオンライン参加はハードルが高いとの声があり、参加方法についての支援が今後の検討課題である。
・小学生の子がいる親世代に向けて、防災をテーマに自分事として考えてもらうこと、共助と交流を意図して参加を呼びかけたが、若い世代（65 歳以下）への声掛け、周知活動が不足していた。
・災害の内容や地域ごとに対応することも異なるため、次年度もテーマは「防災」とし、日中、共助の中心となりうる地域に残っている子供たち・母親世代と高齢者の双方が参加できる地域ケア推進会議とするための工夫が検討課題である。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名②</td><td colspan="2">空きスペース等を活用し、新たな集いの場と参加者の開拓を行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="8">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">高齢者にとって外に出かける事に意義があることを周知し、歩いて通える集いの場を増やすことで、フレイルを予防し、近隣との繋がりを保つことができる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">・フレイル予防のための集いの場として、玉川学園商店街エリアに町トレグループを立ち上げる。
・新型コロナ感染拡大のため中断していた 2020 年度「お庭カフェ」の企画は、お庭提供可能者自身がおもてなしをする企画と勘違いされていることが判明したため、「ご近所さん会✿お庭カフェ」と名称を変更した。玉川学園町内会・玉川学園地区社会福祉協議会・まちづくりの会・町田第 3 高齢者支援センターが協力して実行委員会を設立し、コミュティセンターオープンイベント等にて地域の繋がりをテーマに地域住民への居場所づくりのための周知活動を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">・新規町トレグループを立ち上げる。
・地域の居場所づくりを目的に、コミュニティセンターオープンイベント等にて「ご近所さん会✿お庭カフェ」の周知活動を行う。</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td colspan="2">町トレグループ新規立ち上げ 1 ヶ所
「ご近所さん会✿お庭カフェ」チラシ配布数　500 枚</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実績</td><td>実績値</td><td colspan="2">町トレグループ新規立ち上げ1ヵ所、
自主グループ新規立ち上げ 2 カ所
「ご近所さん会✿お庭カフェ」チラシ配布数　500 枚</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">・会員からの希望も強く、緊急事態宣言開けを待って休止していた既存の町トレグループが一斉に再開した。フレイル予防の集いの場として、町トレ1ヶ所が立ち上がり、更にボール体操とボッチャの自主グループ 2 カ所が新たに立ち上がった。
・コミュニティセンター開設時に「ご近所さん会✿お庭カフェ」のチラシ 500 枚を配布。地域住民に好評で、すぐに5～6件参加申込があった。緊急事態宣言開けに、個人宅で 2 回、1 丁目の加々美さんち（空き家対策）で 2 回開催された。11月に周知活動を行い、多世代の方に参加を呼びかけた。親子の参加申し込みが 2 組あった。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">・個別地域ケア会議の対象となった独居高齢者の自宅で、見守りを兼ねたお庭カフェが開催できないか検討していた。独居高齢者自身でお庭カフェを企画するのは困難なため、チームとして支援してくれるあんしん連絡員や近隣住民のどのように参画してもらうかが検討課題である。
・町トレ参加者が仲間内で、自宅に招待しあい、繋がりを深めているとの報告を受けている。今後、週 1 回の町トレに加えて、アクティブシニアの社会参加のきっかけづくりや高齢者以外の世代にも見守り合う仲間として参加してもらえるようなお庭カフェに発展させていけないかが検討課題である。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名③</td><td>認知症の人を早期発見及び支援するため、支援者を養成する。</td></tr>
<tr><td rowspan="8">計
画</td><td colspan="2">目標</td></tr>
<tr><td colspan="2">地域の社会資源とのネットワークを構築して、認知症の人を適切な支援に繋げる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="2">・玉川学園 2 丁目で 1 回、7 丁目で 1 回、あんしん連絡員の活動内容の再確認を含む継続支援を行う。 あんしん連絡員ブロック会議と地域ケア推進会議をセット開催し、見守り活動の周知やネットワークの強化を図る。
・玉川学園商店街にて新たな見守り協力事業所の登録を依頼し、ネットワーク作りを行い、認知症の人の早期発見及び支援に繋げる。
・認知症の理解を進めるために「当事者が望むサポート」に重点をおいたサポーター養成講座やファイト講座を開催し、地域の中で当事者を支える土壌づくりを行う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="2">・玉川学園地区　あんしん連絡員ブロック会議の開催数。
・新たな見守り登録事業所の数
・認知症サポーター養成講座・ファイト講座の開催数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>・あんしん連絡員見守りブロック会議　2 回
・新規見守り登録事業所　2 ヵ所
・認知症サポーター養成講座　2 回　ファイト講座　1 回</td></tr>
<tr><td rowspan="3">実
績</td><td>実績値</td><td>・あんしん連絡員見守りブロック会議　3 回
・新規見守り協力事業所　3 カ所
・認知症サポーター養成講座 3 回　ファイト講座 1 回</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="2">・あんしん連絡員ブロック会議と地域ケア推進会議のセット開催はできなかったが、玉川学園 7 丁目の方で 2 回、8 丁目の方で 1 回、地域ケア個別会議を開催した。その際、あんしん連絡員にも参加してもらい、併せて見守りブロック会議も開催した。見守ってもらいたいと希望する高齢者とあんしん連絡員が繋がることについて話し合うことができた。
・新たに郵便局 2 ヵ所・紅茶屋1ケ所に協力事業所に登録してもらい、その後、認知症の疑いのある人を店頭で見受けた際に、支援センターに支援の要請が入るようになり、認知症の人の早期発見及び支援につなげることができた。
・認知症サポーター養成講座から、認知症の理解を深めるための定期的な読書会へと発展している。ファイト講座の効果としては、参加者がより認知症を自分事として考えるようになり、例えば、町トレの参加者で判断能力が低下され始めた方も引き続き町トレに参加してもらえるよう、皆で出来る限り支援していきたいとの方針が出ている。</td></tr>
</table>

	2022年度に向けた課題
	・これまで支援センターと関わりのなかった地域住民へ認知症の理解を深めるために普及啓発を行い、地域住民を中心としたまちづくりの中で、認知症への理解も深められるネットワークの構築に繋げていく方法が検討課題である。 ・認知症の普及啓発方法とその内容について検討する必要がある。例えば、認知症サポーター養成講座は、「認知症になった人をサポートする私」という視点が中心となっており、受講者には、もっと自分事として理解して頂く必要がある。そのため、認知症の方による本人会議の様子を見てもらってから普及啓発を行う等の工夫が必要である。また、自分事として考えてもらうことを目的として、お庭カフェ単位での認知症サポーター養成講座を開催できるよう働きかけていけるかが課題である。

3　地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数（企画会を除く）	南大谷地区2回　玉川学園地区2回
検討する課題（決まっている場合のみ）	
・南大谷地区　「防災」をテーマに風水害・土砂災害のリスクの大きい地区から2回開催予定。 ・玉川学園2丁目で1回、7丁目で1回あんしん連絡員の活動内容の再確認を含む見守り交流会と地域ケア推進会議を開催予定。	

4　市のコメント

①特に評価できる点

・地域の活動団体等との連携を深め、地域の空き家活用と多世代交流ができる「加々美さんち」を活用してのカフェの開催ができたこと。
・新たに 3 ヵ所の事業者に見守り協力事業所として登録してもらい、認知症の疑いのある人が店頭で見受けられた際に、支援センターに支援の要請が入るようになり、認知症の人の早期発見及び支援につなげることができたこと。また、今回の事業所登録をきっかけに市内全域の郵便局に登録が拡大できたこと。
・ケース記録の書き方や管理を工夫し、支援の継続性を意識していること。
・居宅介護支援事業所の少ない地域であり、支援センターが積極的に町トレの利用を促していること。

②次年度以降力を入れて欲しい点

・地域づくりをするための若い世代を取り込めていない地域において、地域ケア推進会議などを通して、見守りや地域活動の担い手として活躍できる人材が増えるよう取り組んでください。
・地域ケア推進会議について、「防災」をきっかけとして、更に若い世代の活動が増えるよう取組みを継続してください。

2021年度南第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1　担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】地域の認知症への理解を深め、当事者・家族の支援充実に繋げる 認知症の相談は例年増加傾向にあるが、感染症流行に伴う外出自粛が長期化することにより、今後更に、早期発見・早期支援が遅れる可能性がある。今後はコロナ禍でも認知症の講座に参加ができるよう、認知症支援の普及啓発の手法について創意工夫を行っていく必要がある。また、多世代の住民が関心を持てるような工夫を行うことで、高齢者になる前から認知症や周辺症状について理解を深める機会になると考える。そのため、多世代の住民が集まりやすい南町田グランベリーパークや鶴間公園等を活用し、認知症サポーターや当事者に企画段階から参画してもらい、様々な世代の住民が自分事として認知症について考えてもらう機会を作る必要がある。
【現状と課題②】地域での暮らしを支える介護予防の普及啓発 ・南第1の担当地域では JAGES 調査により、ｽﾎﾟｰﾂ参加率が 36.1％と高いことが示されていたが、昨年度、272 件の戸別訪問による住民アンケート結果によると、コロナ禍での外出自粛により、気力低下・鬱傾向が見られたことや下肢筋力の低下を懸念しているとの声が多く、イベントに参加した方からも、外出しなくなって歩くのが遅くなったとの声が多数挙がっている。今後も感染症流行の長期化が予想されるため、更なる心身機能の低下が懸念される。そのため、医療機関との連携も図りながら、コロナ禍でもできる健康増進の取り組みを進めていく必要がある。一方で JAGES 調査では、「学びたい」との意欲の高い住民層が示されており、新しい生活様式を踏まえて、フレイル予防・下肢筋力低下予防に取り組むことが、介護予防の普及啓発が進む一因となる可能性がある。
【現状と課題③】地域ネットワークの充実 ・戸別訪問による住民アンケートからは、介護予防の他、特殊詐欺・消費者詐欺に関する相談を望む声や経験談なども多く聞かれた。また、担当エリア内では孤独死が発生しており、地域の見守りの目を増やせるよう、引き続き地域活動をしている自主グループを中心に働きかけを行っていく必要性がある。また、介護の専門職からは虐待・ヒヤリハット報告も増加傾向にある。さらには、コロナ禍のため地域で集う場が減り、交流の機会が持てないという課題が生じている。そのような状況において、個々での見守りの視点も重要となってきている。 そのため、今後長期化が予想されるコロナ禍において、新たな交流の機会、地域とのつながりが重要となる。また、今後、オンラインなども活用しながら、感染症対策に留意した連携の形を構築した上で、医療・介護の連携をすすめていく必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<table>
<tr><td colspan="2">取組名①</td><td colspan="2">地域の認知症への理解を深め、当事者・家族の支援充実に繋げる</td></tr>
<tr><td rowspan="8">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">コロナ禍のため、地域に向けて様々な手法で認知症への正しい理解につながる取組を行うとともに、ワンストップの相談窓口としての周知を図ることで、認知症初期段階からの支援に繋げる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">・鶴間・南町田の重点地区を中心として出張相談会を実施し、相談窓口としての周知を行うことで、認知症初期段階での早期発見・支援につなげる。
・地域ケア個別会議により課題を把握し、個々の状態に応じた支援チームを作る。
・多世代の住民が集まりやすい南町田グランベリーパークや鶴間公園を活用し、認知症当事者を含む地域住民主催の読書会やオンラインなど新しい手法も導入しながら、アクティブシニア・働く世代などに向けた認知症関連の講座やイベントを実施する。その都度アンケートなどを行い、今後の活動に活かしていく。
・家族介護者交流会でニーズを拾いながら、認知症への正しい理解につながる講座を開催する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">① 重点地区を中心とした出張相談会の開催数
② 認知症に関する地域ケア個別会議の開催数
③ 認知症当事者を含む読書会の企画会議数及び実施開催数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td colspan="2">①2回 ②10 回 ③4回</td></tr>
<tr><td rowspan="6">実績</td><td>実績値</td><td colspan="2">①3回 ②12 回③4回（企画会議2回、読書会2回）</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">①東急ストアつくし野店で 2 回、南町田店で 1 回出張相談会を開催。南町田店では初開催となった。また、鶴間公園での多世代向けイベントで、認知症事業の紹介や支援センターの周知広報を行った。
②地域ケア個別会議の開催を通じて、本人が希望する在宅生活を継続できるよう民間や公共機関を含めた支援チームを作ることができた
③認知症当事者を含む地域のグループ「オレンジみなみかぜ」による読書会を開催。当事者の参加が増加した。また認知症サポーター養成講座をオンラインで実施。働く世代など多世代の担い手把握に繋がった</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">・出張相談会を継続し、地域に向けてセンターの周知を図っていく必要がある。
・小学校など多世代に向けた認知症の普及啓発は、コロナ禍の影響で働きかけにとどまっている。手法を工夫して実施方法を考えていく必要がある。
・家族介護者交流会ではオンラインを活用することで事業を継続してきたが、参加ができない方を取り残さない工夫が今後必要。
・オレンジみなみ風では、より当事者の視点を取り入れた継続方法を検討する。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名②</td><td colspan="2">地域での暮らしを支える介護予防の普及啓発</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">コロナ禍による気力・体力の低下から脱却をすすめていくために、重点地域を中心に感染予防を意識した屋外での活動、介護予防の普及啓発を進める。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">・鶴間会館、鶴間公園を利用して屋外での介護予防普及啓発講座を実施する。
・介護予防普及啓発講座開催に合わせて実施地域の戸別訪問を行い、住民の介護予防への取り組みの効果を図る。併せて新たな担い手であるオンラインサポーターの育成、介護予防サポーターの発掘を目指す。
・南町田グランベリーパーク・鶴間公園と共同してウォークラリーの実施など、住民の興味関心の持てる介護予防のイベントを実施する。
・近隣の病院と協働し、コロナ禍でもできるフレイルや転倒予防など地域に向けた取り組みを実施する。
・出張相談会や戸別訪問ではフレイル予防のチラシを配布し、周知を図る。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">① 自主グループの立ち上げ数
③ 介護予防啓発イベントの実施数</td></tr>
<tr><td rowspan="4">実績</td><td>目標値</td><td colspan="2">① 2グループ　② 2回</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td colspan="2">①2グループ　②4回（2 月に1回増える可能性あり）</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">・出張相談会にて、フレイル予防のチラシを配布するとともに、握力測定や簡易ボッチャなどの実施を行い、多世代に興味関心をもってもらえる周知広報を行った
・地域介護予防教室ではオンライン講座を実施し、その後認サポ講座の参加や他地域のオンライン交流会の参加などに繋がっている
・7 月講座開催時のアンケート内容を受け、月間では歩く力測定、地域介護予防教室ではﾎﾟｰﾙｳｫｰｷﾝｸﾞを開催。地域の医療機関と連携して開催をし、好評を得た</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">・コロナ禍の影響により会場使用ができず活動再開に至らないグループや活動場所の変更をしたグループも多い。次年度では活動を休止しているグループと継続しているグループとの交流や住民同士の情報交換の場が必要。
・コロナ禍の影響により、気力・体力の低下があり、住民からのニーズも高いため、次年度も引き続き鶴間エリアを重点地域とし、既存のグループの活動継続支援と、新たな活動グループの創出への働きかけをしていく</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名③</td><td>地域ネットワークの充実</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="2">目標</td></tr>
<tr><td colspan="2">感染症対策の為、新たなコミュニケーションの手法を取り入れることで、交流の場を創出し、住み慣れた地域で安心して生活できる地域ネットワークの充実を図る。</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="2">・支援センターの窓口について周知度の低い鶴間 5～7 丁目や見守りの目が少ない地域に戸別訪問を実施し、住民ニーズの把握に努め、支援センターへの相談件数を増やす。
・住民や関係機関へ虐待早期発見のための普及啓発と相談窓口の周知をする。
・オンラインのサポートなどが行える地域住民を育成し、その協力のもと地域介護予防教室を実施して、オンラインを活用した交流の場をつくる。
・地域介護予防教室を実施し、新規自主グループと既存の自主グループに対して見守りミニ講座を開催し、あんしん連絡員協力員の新規会員を増やす。
・特殊詐欺・消費者詐欺防止等の普及啓発の講座やチラシ配布を住民向けに実施する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="2">①オンラインのサポーター養成講座の参加者数
②見守りミニ講座・普及啓発講座の実施回数</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実績</td><td>目標値</td><td>①　5 人　　②　3 回</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td>①　11人　②　4回</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="2">・高齢者虐待をテーマとした地域ケア推進会議では、事前に 50 事業所にアンケートを実施。通報後の流れなど理解不足が課題として挙がり制度説明や事例検討を実施
・ZOOM 活用術をテーマに地域介護予防教室を実施。またオンライン利用について民生委員にアンケートを実施。他の講座でも ZOOM を積極的に活用。オンライン担い手の把握や確保、地域での活動の幅を広げる一因になった。
・地域のニーズにより見守り講座を予定数以上開催。見守り時のポイントを伝えている</td></tr>
<tr><td colspan="2">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="2">・コロナ禍の影響は今後も続くと予想。個々の見守る目の強化が必要となっている
・支援センターへの相談が少ない鶴間5丁目～7丁目エリアでは引き続きアプローチを続けていく必要がある。
・オンライン活動の担い手を把握できたため、感染症の状況を鑑みながら、ハイブリット型での地域活性の場づくりをしていく。
・医療機関との連携・共有がコロナ禍の影響により低下。実情をしり、連携を強化する</td></tr>
</table>

3　地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数（企画会を除く）	3　回
検討する課題（決まっている場合のみ）	
・コロナ禍での課題や取組を見定め、感染症に強い地域をつくる ・虐待防止・ヒヤリハット報告をテーマとした地域ケア会議 ・意思決定支援をテーマとした法律専門家による地域ケア会議	

4　市のコメント

①特に評価できる点

・コロナ感染症流行下において、オンラインを使った講座を早くから実施し、他センターの参考事例となった。また、屋外で活動をする自主グループを立ち上げるなど、介護予防や交流が継続できるための事業を企画・開催できたこと。

・「オレンジみなみかぜ」による読書会の開催を支援し、当事者の参加者を増やすことが出来たこと。

②次年度以降力を入れて欲しい点

・センターの周知が進んでいない鶴間5丁目～7丁目エリアについては、住民ニーズに合わせてアプローチ方法を工夫しながら進めていって下さい。

2021年度南第２高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

１　担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】 コロナ禍により、町トレなどの自主グループ活動が行えない状況となり、閉じこもりの高齢者やフレイルの急激な進行がみられている（全域） コロナ禍における新しい生活様式が必要と言われているが具体的にどのような事を行えばよいか、地域と情報を共有しながら検討していく必要がある。 グループ活動再開に向けた支援が必要となっており、町トレや自主グループなどの活動について、少人数での集まりとするなどコロナ禍で行える活動内容について検討していく必要がある。
【現状と課題②】 地域内では西田団地地域と金森１丁目の高齢化率が高い。相談が入る時には深刻な状況になっていることが多く、早期発見ができていない場合がある。自主グループ活動などでつながっている住民もいるが、活動に参加していない大多数の住民とのつながりの構築が必要である。 ネットワーク構築が進んでいない地域に対して、個別訪問と自治会長との話し合いによるアプローチを続けているが、昨年はコロナ禍にて繋がり構築が不十分となっている。
【現状と課題③】 公営住宅も多く、独居・高齢者のみの世帯だけでなく、障がい者を抱える世帯や、ひきこもりの子どもを抱える高齢者も増えている。虐待ケースの発見や、症状悪化での支援開始となるケースが多く、日頃からの見守り体制の構築や、虐待防止・早期発見に繋がる取組が必要である。担当エリアは、他エリアと比べて虐待対応の件数・権利擁護支援の件数が多い。2020年度に障がい者支援センターやケアマネジャーと地域ケア推進会議で検討を行い、他関係機関との連携の必要性を感じている。支援対象者の現状を把握するにあたって必要とされる視点を確認するとともに、連携体制づくりに取り組む必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<table>
<tr><td colspan="2">取組名①</td><td>コロナ禍における新しい生活様式の活動支援</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="2">目標</td></tr>
<tr><td colspan="2">新しい生活様式を取り入れ、閉じこもりやフレイル予防を推進する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="2">・地域の喫茶店などを活用しての少人数での気軽な集いの場作りを支援する。
・見守り訪問や自主グループ、自治会・老人会活動の現状確認を定期的に行って情報収集するとともに、支援センター内で共有して支援継続を行う。
・専門職間での連携を図り、感染症発生時の対応力向上に向けた地域づくりを行う（地域ケア推進会議での共有と検討実施）。
・南第 2 高齢者支援センターの取組・活動の周知を行い、認知度を上げる。
・スマホ教室開催にて、インターネットで防災などの情報収集やオンライン会議・講座への参加ができることができるように支援を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="2">①少人数での集いの場活動支援数
②見守り訪問戸別数
③圏域での感染症に対する情報共有と対策検討の地域ケア推進会議開催数</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実績</td><td>目標値</td><td>① 2箇所 ②月平均50件 ③1 回</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td>① 0 箇所 ②月平均46件 ③2 回</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="2">緊急事態宣言期間もあり直接集まることは難しいと判断。既存グループの状況把握と他グループの情報提供や感染予防に関するアドバイスを実施した。見守り訪問を続け、小学生からのメッセージカードや特殊詐欺啓発チラシも届けた。見守り訪問やグループの状況把握から介護保険申請につながったケースもある。スマホ教室・オンラインサポーター養成講座開催。民生委員と南あんしんプロジェクトをZOOM で開催でき、オンラインでのやりとりもできるようになった。 南圏域として地域ケア推進会議を開催し、対応力向上に向けて課題抽出と対策検討を行った。</td></tr>
<tr><td colspan="2">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="2">・コロナフレイル増加が課題と把握している。介護予防の取組の継続が必要。
・地域ケア推進会議で出た「感染症流行下におけるADL低下・認知症の進行への対応」という地域課題に対する、交流の場の確保、情報共有への実践。
・地域の活動の状況把握の継続。また、スマホを持っていても活用できない高齢者が多いという課題に対し、オンラインを活用してのつながり作り支援の実施（高ヶ坂成瀬地区協議会と共催のスマホ互助交流会を通じて住民同士のつながり作り支援）。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名②</td><td>ネットワーク構築</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="2">目標</td></tr>
<tr><td colspan="2">ネットワークが十分ではない地域を中心に、認知症サポーター養成講座やフレイル予防をきっかけとしてネットワークを構築し、見守り体制を継続する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="2">・介護予防普及啓発講座など各種講座・イベントの開催にて、コロナの影響による介護予防の視点について学ぶ機会を作る。
・これらを元に、自治会などでできることの話合いの場を設けていただき、連携を図る。介護予防の取り組みができる通いの場づくりを支援することで、関わりの薄い地域とのネットワーク構築につなげる。
・2020年度に立ち上がった金森第11都営の見守りネットワークを継続して頂くために、見守りの視点の発信や見守り協力員を増やせるよう支援を実施する。また既存の見守りネットワークも継続していく。見守り合う視点の周知や自主性を尊重しての見守り活動支援を実施する。お互いに見守り合う意識を支援して、見守りをしてくださる方を増やす。見守りの必要性などを記載した広報誌やチラシ配布など行う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="2">①認知症ｻﾎﾟｰﾀｰ養成講座・介護予防普及啓発講座・見守り普及啓発講座の各開催数
②自治会・老人会・自主ｸﾞﾙｰﾌﾟとの話合いの回数
③見守りの必要性を記載した広報誌発行数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>① 3・2・2回 ②3回
③見守りの必要性を記載した広報誌発行数4回</td></tr>
<tr><td rowspan="6">実績</td><td>実績値</td><td>① 0、1、1回 ②8 回 ③1 回(9 月号)</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="2">自治会・老人会・自主ｸﾞﾙｰﾌﾟとは定期的に連絡をとりあい、関係構築できている。 講座に関しては目標回数達成ができなかったが、重点地区とした西田団地地区は話合い・ｱﾝｹｰﾄ実施から町ﾄﾚｸﾞﾙｰﾌﾟ立ち上げの応援講座まで実施でき、金森一丁目へはｱﾝｹｰﾄを実施して教室などのﾆｰｽﾞを把握して提案中。
見守り訪問は職員全員で行った。金森 11 都営は 0 名も、広報誌回覧とﾈｯﾄﾜｰｸ会議での声掛けを実施し、金森泉自治会のﾈｯﾄﾜｰｸで見守り連絡員を 5 名増員できた。</td></tr>
<tr><td colspan="2">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="2">西田団地地区は町ﾄﾚｸﾞﾙｰﾌﾟの立ち上げができ、金森 1 丁目地区とも関係性を構築できたため、日常的な関わりが少ない地区を重点地区として再検討し、圏域内でのﾈｯﾄﾜｰｸ構築に引き続き取り組んでいく。連絡が入ったときには要介護状態など早急な対応が必要なｹｰｽも多く、早期発見・対応ができる関係性を作る必要がある(南成瀬を想定)。
各種講座に関しては、ｺﾛﾅの状況に応じてとなるが、計画は続けていく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名③</td><td>8050 など多世代問題への対応力強化</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="2">目標</td></tr>
<tr><td colspan="2">8050 問題などの複合的な問題について、円滑に支援できるよう、民生委員、障がい者支援センター、子ども相談センター、保健所、社協、地域との連携体制を構築する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="2">・南地区協議会とも連携し、高齢・障がい・子どもの専門職が集まっての情報交換や連携体制に関する定例会を開催し、課題抽出・事例検討を行う。
・障がい者支援センター、保健所、圏域のケアマネジャーなどの関係機関を交えての地域ケア推進会議を開催し、圏域のケアマネジャーがどのような時に連携が必要かの気づきの視点などについて学ぶ。
・圏域のケアマネジャー向けに権利擁護の勉強会を開催し、虐待ヒヤリハットの提出など、発見時にすぐに連絡が入る体制を強化する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="2">①専門職（民生委員、障がい者支援センター、子ども相談センター、社協）との定例会での検討回数
②地域ケア推進会議の開催数
③権利擁護の勉強会の開催数</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実績</td><td>目標値</td><td>① 10回 ②1 回 ③1 回</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td>① 10回 ②1 回 ③3回（南圏域合同1回）</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="2">南あんしんプロジェクト定例会を開催し、高齢・障がい・子ども支援センター、民生、社協の役割共有と事例について検討を行った。
地域ケア推進会議開催はオンラインで2月に予定。保健所との関わり方についてなど意見交換を実施し課題抽出予定。
権利擁護に関する勉強会は、「虐待対応」「成年後見、消費者被害」について南第2として圏域ケアマネジャー向けに開催。南圏域合同では「権利擁護勉強会」をケアマネジャー向けに開催した。開催後に消費者被害疑いの連絡をいただけたり、法人のケアマネから虐待ヒヤリハット等を提出いただけたりと、勉強会の効果も出ている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="2">南第 2 圏域では公営住宅も多く、多世代課題として障がい者支援センターや保健所と連携しての対応も増えている。子育て支援センターと連携してのケース対応はまだ出ていないが、東京らしい地域共生社会づくりの「東京モデル」推奨もあり、顔の見える関係性作りから次のステップとして南地区社協立ち上げに向けて取り組む。
消費者被害は圏域でも発生している。勉強会も継続して開催し、支援者向けの啓発活動に取り組む。</td></tr>
</table>

3　地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数（企画会を除く）	4　　回
検討する課題（決まっている場合のみ）	
複数ある場合は、箇条書きで記載してください。 ・新型コロナウイルスに対する情報共有と対策について ・8050問題への取組 ・権利擁護 ・自立支援	

4　市のコメント

①特に評価できる点

・介護予防に取組める場がないことが課題であった「西田地区」に、長年働きかけ続けてきた結果、町トレのプレゼンテーションが実施でき、グループが立ち上げることができた。西田地区と同じく重点地区としていた「金森一丁目」でも自治会との関係性が構築できたこと。

・見守りの訪問件数が月平均46件とコロナの状況でも、アウトリーチに力を入れて実施出来ていること。

・南あんしんプロジェクト定例会にて、多世代の関係機関と連携を取れていること。

②次年度以降力を入れて欲しい点

・障がい者支援センター等他部門の専門機関との連携について、引き続き検討を進め、今後の対応に生かせるようにして下さい。

2021年度南第3高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1　担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

【現状と課題①】 成瀬町内会エリア 成瀬町内会エリアは成瀬２丁目から８丁目までと広域で、独立した自治会が飛び地的にある。昔から住んでいる住民と宅地開発で転入した若い層の住民が混在していて、高齢化率は21%と町田市の平均より低い。支援センターへの総合相談件数は他の地域より少ない傾向にあり、支援センターの周知が足りていないこと、地域課題が把握出来ていないことから、昨年度より重点地域として取り組んでいる。ただ、コロナ禍により計画通りに地域への働きかけが出来なかったことから今年度も継続とする。閉館になりそうだった成瀬会館は、ゼルビアスポーツクラブが借りることで運営を継続し、地域の拠点として現在は子供の学習・スポーツ等の教室や、高齢者対象の体操教室などを実施しており、今後の連携が期待できる。
【現状と課題②】 成瀬・成瀬台（成瀬台自治会連合会）エリア 昭和40年代後半から開発された戸建て住宅のエリアで高齢化が進んでおり、特に成瀬台3丁目は45%を超え、その中でも後期高齢者の割合が7割に達しているため、相談件数が非常に多いエリアである。最寄り駅からバス利用の為、通勤に不便で子供世帯との同居率が低く、高齢者のみや一人暮らしの世帯が多く、認知症や老々介護など多くの問題が出てきている。家族や他者に迷惑をかけたくないという意識を持つ住民が多いため、問題が起こっても相談をせずに抱え込んでしまい、地域で孤立する高齢者が多いことから、支え合って暮らしていくことが出来る共生の地域づくりが求められている。課題解決の為、2019年11月に地域住民が主体となって「高齢者共生セミナー実行委員会」が立ち上がった。コロナによって当初の計画通りに活動が進まない一方で、新たな取り組みを考えるきっかけとなっている。
【現状と課題③】 全域（介護予防・フレイル予防の観点から） 現状：2020年度はコロナ禍により活動自粛を余儀なくされ、フレイル状態にある高齢者が増加傾向にある。情報交換の新しい提案としてオンライン交流会を開催してきたが、ハード面・ソフト面でのハードルが高く、情報の共有や交流を必要としている多くの高齢者に対して波及していない。また、地域には様々な経験・能力・意欲を持った人や活用出来る場所が多くあるが、必要としている人と結びついていない現状にある。 課題：コロナ禍でも活動することができる介護予防活動の場づくりが求められている。高齢者へのオンライン波及に当たってはオンラインサポーターを育成し、活動の拠点を増やすことで、ハード・ソフト面でも参加できる環境を整える事が出来る。地域資源、ニーズの結びつけには地域の掲示板を活用し、住民同士での支えあいの気持ちを築いていく。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<table>
<tr><td colspan="2">取組名①</td><td colspan="2">成瀬町内会エリアの地域課題を住民と一緒に探る取り組み</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">地域支え合い連絡会を開催し地域課題を把握する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">・町内会や地域の商店、企業、様々な活動団体に向けて支援センターの周知と地域の困り事の聞き取りを行い、支え合い連絡会への参加を働きかける。支え合い連絡会は、高齢者のみではなく多世代に参加してもらうことでそれぞれの視点の課題を抽出し、解決へ向けた取り組みに活かせるようネットワーク化を図る。
・町田ゼルビアスポーツクラブと連携し、成瀬会館の集い場としての活用や高齢者と子供（親世代）をつなぐ活動・イベント等互いの強みを活かした取り組みを検討する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">① 支え合い連絡会の開催回数
② ゼルビアとの協働回数</td></tr>
<tr><td rowspan="4">実績</td><td>目標値</td><td colspan="2">① 1回 ② 1回</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td colspan="2">① 1回予定 ② 1回</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">① コロナ禍で大人数での集まりが難しいため、支え合い連絡会も小さい集まりで開催予定とした。最初に若い世代の視点からの地域課題把握を目的に、学校や保育園、子供会、町田ゼルビアスポーツクラブなどの子育て関連の活動団体などに支え合い連絡会への参加を働きかけ1月末から2月の中旬くらいの開催へ向けて調整をおこなっている。
② 介護予防月間地域型イベントを町田ゼルビアスポーツクラブと「多世代交流」をテーマに共同開催し、若い世代に高齢者支援センターの取り組みを知ってもらう場として活用した。また、イベントをきっかけにゼルビアから、教室などの活動を高齢者に手伝ってほしい、イベントに協力してほしい…等、新たな連携の可能性が生まれた。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">コロナの状況により支え合い連絡会が延期となる可能性がある（オンラインでの開催も検討したが、内容として適していないと判断）。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名②</td><td>高齢者共生セミナー実行委員会の助け合いの地域づくりへの協力</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="2">目標</td></tr>
<tr><td colspan="2">実行委員会主催の、認知症に関するセミナーや高齢者の様々なお役立ちセミナーなどの実施により、住民の協働への参加意欲が芽生えてくる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="2">共生に向けたセミナーの次の４つの取り組みへの協力
・認知症サポーター養成講座の開催・当事者とのミーティングの調整
・高齢者の孤立化防止に向けた、挨拶を交わす運動への協力（支援センターが地域の協力団体を紹介したり、地域連携への提案を行う）
・医療と介護の情報提供や支援センターの役割を情報提供（支援センターの取組内容を紹介するＤＶＤも活用）
・「成瀬お助けたい」など、地域で日常生活を支援する団体に対して、協働の提案や連携</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="2">①　認知症サポーター養成講座、当事者とのミーティング開催回数
②　挨拶運動参加団体の紹介件数
③　セミナーの広報誌「共生のまち」への情報提供・紙面協力回数
④　生活支援団体との連携のための団体代表との会合数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>①認知症サポーター養成講座２回、当事者ミーティング１回②１か所③４回④１回</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実績</td><td>実績値</td><td>①2 回②挨拶運動がコロナ禍により延期③2 回④2 回</td></tr>
<tr><td colspan="2">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="2">①コロナ禍により認知症サポーター養成講座や当事者とのミーティングは実施できなかったが、会員に向けて認知症について知るための講座を2回開催した。
②挨拶運動はコロナ禍により学校との合同実施が延期となったが、ラミネートのポスターを、会員・まちとも協力者・学童に配布した。
③セミナー広報誌の作成にあたり、高齢者支援センターの役割や介護保険制度について情報提供し、表現の仕方など紙面づくりについて助言を行った。
④成瀬お助けたいとの会合をもち生活支援はお助けたいに、見守り活動を「高齢者共生の会」（※）で実施することとなり、見守りの仕組みづくりを協議
（※）高齢になって必要なのは認知症の知識だけではないと会員の総意で「認知症セミナー実行委員会」から「高齢者共生の会」と名称変更した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="2">・見守りの意義を住民にしっかりと伝えていくことで、見守り協力者を増やしていき、地域にあった見守りの方法を住民と一緒に検討していく必要がある。
・認知症当事者との交流や当事者が地域に求めるものの把握について、地域住民が主体となって実施できるよう、センターで後方支援していく必要がある。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名③</td><td colspan="2">全域でコロナ禍でも取り組める介護予防・フレイル予防の取り組み</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">① コロナによって活動が出来ず、フレイル状態に陥っている高齢者に対して屋外でも取り組むことができる集いの場を作る。
② 介護予防の為のオンラインによる交流・活動の場の創出。
③ 地域の掲示板の活用により、情報交換と、スキル等の結び付けを行う。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">・ コロナ禍でも可能な自主グループを立ち上げ、フレイル状態にある高齢者に対し介護予防活動の場を作り出していく。
・ オンライン交流会を定期的に開催し、オンラインサポーターの育成を行う。オンライン環境が整わない参加希望者に対しても少人数で参加できるよう地域の活動の拠点を作り、情報交換が出来るよう環境を整備していく。
・ 地域のみんなの掲示板を活用し住民ニーズとスキル等のマッチングをおこなう。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">① コロナ禍でも出来る活動の場づくり ② オンライン交流会の実施
③ マッチング登録数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td colspan="2">① 1回 ②月1回 ③8回</td></tr>
<tr><td rowspan="4">績</td><td>実績値</td><td colspan="2">① 1回 ②月1回 ③12 回</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">① 吟行を取り入れた俳句の地域介護予防教室の講座を計7回で実施し、自主グループを立ち上げた。毎週月曜日、吟行や句会、運動の内容で活動開始。緊急事態宣言中に立ち上げたLINEで俳句も継続している。
② 毎月 1 回第 2 木曜日に実施した。毎回12～15名が参加。高齢者の方の ICT の活用の普及、地域の団体や人との交流から発展した繋がりができた。
③ 2 週間に1回MSCで依頼内容とマッチング件数について共有した。介護予防月間イベントではマッチングで生まれたモノづくりチームが出店した。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">・多世代での交流も含め、歩いていける身近な場所での集いの場づくり。
・オンライン交流会の定期開催により、地域を越えた繋がりは出来た一方で、幅広い住民に対し、定着を促していくためのサポートには到達していない。今後もICT普及のためにオンラインサポーターの育成を行っていく必要がある。
・地域の掲示板の今後の展開方法。</td></tr>
</table>

3　地域ケア推進会議の開催予定

2021年度に開催する地域ケア推進会議について記載してください。

開催予定回数（企画会を除く）	2　回（3回実績）
検討する課題（決まっている場合のみ）	
複数ある場合は、箇条書きで記載してください。 ・「コロナに強い地域づくり」実現のための課題把握（南圏域3センター合同） ・個別ケースからみた共通課題 1　プライベート重視のオートロックマンションにおける高齢者の孤立化 2　住み慣れた場所に元気で住み続けるために、今から備えておくべきこと 3　医療・介護や集い場・生きがい活動など様々な社会資源周知と、住民同士の見守り活動や連携の不足	

4　市のコメント

①特に評価できる点

・コロナ流行中でも、高齢者が介護予防や交流を継続できるよう、オンラインツールを利用した交流会の実施や、自主グループの立ち上げができたこと。

・イベントをきっかけに、ゼルビアとの関係構築を始めることができたこと。

②次年度以降力を入れて欲しい点

・「高齢者共生の会」については、年度ごとに目標や内容を絞るなど実行性のある取組が進められるような支援をしていって下さい

・ゼルビアとの活動が進んでいけば、現在話が出ているゼルビア事務所の留守番を高齢者が担うといった、高齢者の力を活用する取り組みや連携が進んでいくのではと感じられるため、今後も関係を構築していって下さい。

2021年度医療と介護の連携支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 町田市の現状と課題

センターとして考える町田市における在宅医療・介護連携推進事業の現状と課題を記載してください。

【現状と課題①】 地域ケア会議の有効活用と他圏域への展開 現在、各圏域において医療と介護の連携をテーマに地域ケア会議が行われており、そのテーマについては各圏域の地域課題を取り上げ、解決を目指しているが、その取り組みの多くは事後の評価が行われておらず、成果を評価するには不十分な状況にある。 各圏域で行われる地域ケア推進会議の内容を精査・分析し、今後の地域課題の解決のために活用可能な手法を蓄積し、その手法を効果的に活用できるよう高齢者支援センターへの情報発信・支援が必要であると考える。併せて高齢者支援センターが地域課題を定めたプロセスを共有するための聞き取りも必要である。
【現状と課題②】 医療・介護保険制度への理解の深化（医療と介護の連携協働に関する部分について） 2018 年 4 月の医療・介護保険の同時改正にて、医療と介護の連携に関して新設や改正された項目があったが、その内容について現場レベルでの理解が不十分な状況にある。2020 年には医療保険の改正がされており、地域包括ケアシステムの推進についてはより強化された内容が盛り込まれている。2021 年 4 月に介護保険制度の改正があり更なる医療介護の連携を行う事は必須である。現場で実務を行う医療職や介護・福祉職へ対し医療介護保険制度の理解を促すことにより、医療と介護の連携協働を促進することが必要と考える。
【現状と課題③】 医療機関と連携協働を図れる体制の構築 医療と介護の連携支援センターの前身となる「医療と介護の連携センター」業務を 3 年間、医療と介護の連携支援センターになってから 1 年間業務を行ってきた中で、医療職（特にかかりつけ医）からの活用が少ない現状がある。そこで医療と介護の連携を促進する上で、在宅支援診療所を中心に市内にある約 250 か所の医療機関を回り、当センターの機能について説明を行い、医療機関と連携・協働を図れる体制を構築する必要があると考える。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

<table>
<tr><td colspan="2">取組名①</td><td colspan="2">地域ケア推進会議の有効活用と他圏域への展開</td></tr>
<tr><td rowspan="7">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">地域ケア推進会議を通じ、地域ごとの課題を把握しその解決を目指していく。
その際、他圏域でも転用できる解決方法があれば当センターに手法を蓄積・分析を行い、他圏域にて同内容テーマで地域ケア会議を開催する際には情報提供や支援を行えるようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">各地域ケア個別会議・支援センター単位の地域ケア推進会議・圏域の地域ケア推進会議に出席し、各地域が持つ特性や現状の課題、それに対する取り組み（課題解決までにつながるプロセス）の把握を継続的に行う。
他圏域での地域ケア推進会議や町プロ協議会などで各取組の報告・紹介・周知を行う。
また、把握した各取り組み内容を当センター内に蓄積し、他圏域にも活用できるものかを検討を行うとともに、他圏域で活用を目指す際にはその圏域の地域資源を活用して実行できるように支援を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">要請された地域ケア会議（推進会議・企画会議を含む）への出席割合</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td colspan="2">要請され開催された会議数 100%</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実績</td><td>実績値</td><td colspan="2">要請され開催された会議数 14 件　出席した会議数 14 件</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">出席要請があった圏域又は支援センターの地域ケア推進会議に企画会から参加し、それぞれの圏域・支援センターでの取り組み内容（テーマ・過程・目標・結果）について把握を行った。把握した情報は当センター内で共有し、他圏域で応用できそうなもの、提案可能なものは情報提供を行った。（ex.鶴川圏域での情報共有ツール（MCS）に関する取り組みを堺 1 へ情報提供。堺 1 で取り組みを開始する際に、鶴川圏域支援センターから協力が得られるように調整を行った。）</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">今年度も地域ケア推進会議や企画会がオンライン主体となっていたため、各支援センターとの関係性を強化することが難しい状況であった。次年度も新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら積極的に各センターを訪問するなどして、お互いに率直な意見が交換できるような関係性を築いていきたい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名②</td><td colspan="2">医療・介護保険制度への理解の深化</td></tr>
<tr><td rowspan="7">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">医療・介護保険制度下で業務に従事している職種が、医療保険や介護保険の保険制度（特に医療と介護の連携協働が必要な部分において）を理解することにより、医療と介護の連携を促進させる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">2020年度同様、医療・介護保険制度への理解を深めるため1つのテーマで3回のセミナーを開催する。本年も支援センター・居宅介護支援事業所を主の対象とするが、事業所種別・職種に関しては制限を行わず、受講者を募っていく。
2021年度は介護保険報酬改定も行われる予定であり、更なる医療介護連携協働を担う“居宅療養管理指導”に関わる部分を重点的なテーマとする。
また、新型コロナウイルス感染症への対策として、オンラインでの開催を検討する。その後配信も行い受講者の拡大を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">セミナーの開催数、1 回あたりの受講者数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td colspan="2">3 回（8 月、10 月、12 月）、30名以上</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実績</td><td>実績値</td><td colspan="2">3 回（8 月　54 名、10 月　43 名、12 月　44 名）</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">参加者のアンケート結果からは、実際に居宅療養管理指導を利用する際に医療職と連携をするポイントについて理解が深まった、また、今後の自身の業務にも活かしていけるとの意見が複数あり、目標に対しては成果をあげることができたと考えている。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">昨年度と今年度は保険制度への理解をテーマに行ったが、医療と介護の連携を促進させていくために、開催内容を充実させることが課題。そのため、次年度はより実務に活かせるテーマを取り扱い、保険制度以外のテーマを設定していく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">取組名③</td><td colspan="2">医療機関と連携・協働を図れる体制の構築</td></tr>
<tr><td rowspan="6">計画</td><td colspan="3">目標</td></tr>
<tr><td colspan="3">医療機関への当センターの周知活動を行うとともに、市内各圏域の医療資源の把握、各医療機関と顔の見える関係を築くことにより連携・協働を図れる体制を構築する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の取組</td></tr>
<tr><td colspan="3">在宅支援診療所を中心に、市内にある約 250 か所の町田市医師会所属の医療機関に対し、当センターの機能について説明をし、各医療機関と顔の見える関係を構築する。
新型コロナウイルス感染症への対策として、センターとして訪問を可能とする指標（国の示すステージ指標を基にステージ 1 の場合）を設定し、訪問先の医療機関に負担のないように配慮した上で訪問を行う。また、町田市医師会外の医療機関においても当センターの機能について説明を行う。</td></tr>
<tr><td colspan="3">活動指標</td></tr>
<tr><td colspan="3">市内医療機関、また必要に応じ他市の医療機関も含め、訪問による周知活動をした医療機関数。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実績</td><td>目標値</td><td colspan="2">町田市医師会所属の医療機関　80%以上</td></tr>
<tr><td>実績値</td><td colspan="2">町田市医師会所属の医療機関　約 72%
（医療機関数 256 のうち 184）　1/15 現在</td></tr>
<tr><td colspan="3">2021年度の成果</td></tr>
<tr><td colspan="3">12 月末日までの予定を含むと、現状では約 7 割の達成率。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響があり、本格的に医療機関へ訪問ができるようになったのは 10 月以降になってしまった。訪問した医療機関では医師と直接話をする機会もあり、医療介護連携について医療側からの意見の収集や、顔の見える関係性を築くことができている。実際、訪問時や訪問後に医療機関より相談を受けたケースもあった。</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年度に向けた課題</td></tr>
<tr><td colspan="3">まだ各医療機関と十分に顔が見える関係性を築けているとは言えない現状があるので、今後も定期的な訪問を重ねていき、率直な意見を伺える機会を作っていく。併せて、目標を達成するために、医師会所属の医療機関だけでなく、歯科医師会・薬剤師会に所属する他の医療機関へも訪問を展開していきたい。</td></tr>
</table>

4　市のコメント

①特に評価できる点

・出席要請があった全ての地域ケア推進会議に企画会から参加し、取り組み内容について把握するとともに、高齢者支援センターに対して助言を行う等、市内全体の地域ケア推進会議の質の向上に努めたこと。

・医療・介護保険制度への理解を深めるためのセミナーについて、目標値よりも多くの参加者を確保し、知識の底上げができたこと。

②次年度以降力を入れて欲しい点

・より多くの医療機関に連携支援センターを活用いただけるよう、連携支援センターの役割について、医師会だけでなく歯科医師会や薬剤師会にも働きかける等、周知を進めてください。

・地域ケア会議の開催支援について、医療側からも参加を希望する声が上がってきており、地域ケア会議への関心が高まっています。多くの医療職が参加できるよう、各圏域又は高齢者支援センターの支援をお願いいたします。

・支援センター・居宅介護支援事業所向けの研修会について、次年度は実務で活用できる内容を予定しているということなので、現場で働いている職員のニーズや課題を把握し、それを反映した内容となるよう、工夫してください。